

瑞 龍 遺 跡

常陸太田市内遺跡調査報告書

第13集

2019

茨城県常陸太田市教育委員会

ずい 瑞 りゅう 龍 い 遺 せき 跡

常陸太田市内遺跡調査報告書

第13集

2019

茨城県常陸太田市教育委員会



巻頭写真 1 瑞龍遺跡遠景 1 (北方向から 平成 29 年度調査区 1)



巻頭写真 2 瑞龍遺跡遠景 2 (西方向から 平成 30 年度調査区 8)

序

常陸太田市は、平成16年12月1日の1市1町2村の合併により、県内第1位の面積を誇る市となりました。市域には300か所を超える埋蔵文化財包蔵地がみられ、県内第2位の規模を誇る前方後円墳の梵天山古墳をはじめ、全長100mを超える星神社古墳と高山塚古墳、久慈郡寺の推定地とされる長者屋敷遺跡など、貴重な遺跡が数多くあります。

当市では、これらの貴重な遺跡の保護・保存を図るとともに、その性格を明らかにすることによって活用を図ることができるようにすることを目的として、市内遺跡事業に取り組み、調査を進めてまいりました。

本報告書は、それらの調査の成果を報告することを目的として刊行するもので、平成29・30年度に実施された瑞龍遺跡の発掘調査で得ることができた成果について盛り込みました。

当市では、総合計画のひとつの柱としまして「地域資源を磨き活用するまちづくり(エコミュージアムによるまちづくり)」を進めております。地域に埋もれた資源を発見し、その資源について学び、活用することが地域の活性化に結びついていくものと考えております。本報告書が、そのような地域資源の発見・活用の一助になるとともに、この成果が少しでも多くの方々のお役に立つことが出来れば幸いです。

最後になりましたが、調査から報告書の刊行までご指導・ご協力を賜りました皆様に、厚く御礼申し上げます。

平成31年3月

常陸太田市教育委員会
教育長 石川 八千代

例 言

- 1 本書は、茨城県常陸太田市瑞龍町688ほかに所在する、瑞龍遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、市道6035号線(瑞龍中道線)外道路改良工事に伴う、記録保存を目的とした埋蔵文化財発掘調査である。
- 3 調査は、常陸太田市より委託を受けた有限会社毛野考古学研究所が、常陸太田市教育委員会の指導のもとに実施した。
- 4 発掘調査の面積、期間は以下のとおりである。

【平成29年度調査】 調査面積 684.81㎡
調査期間 平成29年11月27日～平成30年2月28日

【平成30年度調査】 調査面積 442.26㎡
調査期間 平成30年7月17日～平成30年10月30日

- 5 調査体制は以下のとおりである。

【平成29年度調査体制】

調査主体者	常陸太田市教育委員会	教育長	中原一博
調査指導	常陸太田市教育委員会文化課	主任	山口憲一
事務局	常陸太田市教育委員会文化課	課長	大島敬一
	同	課長補佐	高橋知之
	同 文化振興係	係長	助川喜作
	同 文化振興係	主幹	山田明日香
	同 文化振興係	主事	田所由妃

【平成30年度調査体制】

調査主体者	常陸太田市教育委員会	教育長	石川八千代
調査指導	常陸太田市教育委員会文化課	主任	山口憲一
事務局	常陸太田市教育委員会文化課	課長	岩間勇二
	同 文化振興係	係長	助川喜作
	同 文化振興係	主事	川崎祐子
	同 文化振興係	主事	田所由妃
	同 文化振興係	主事	萩谷友里恵

- 6 発掘調査ならびに測量・空撮の担当者は以下のとおりである。

調査担当 早川麗司(有限会社毛野考古学研究所)

測量・空撮 小出拓磨(有限会社毛野考古学研究所)

- 7 発掘調査の参加者は、以下のとおりである。

【平成29年度】 小沢明子 河井慎吾 河井孝行 菊池有里子 西宮芳江 濱敏子
細小路友愛 矢代信子 安井忠一 山崎美智子

【平成 30 年度】 小沢明子 岡田利美 河井慎吾 河井孝行 菊池有里子 西宮芳江
濱敏子 細小路友愛

8 整理期間と整理担当、整理技士は以下のとおりである。

整理期間 平成 30 年 11 月 1 日～平成 31 年 3 月 20 日

整理担当 早川麗司

整理技士 金谷奈央 鈴木梢 岡田利美

9 本書の執筆分担および編集は、以下のとおりである。

第 1 章第 1 節を山口、それ以外すべての執筆と編集および遺物の写真撮影を早川が担当した。また、縄文土器の実測は松田政基(有限会社毛野考古学研究所)が作成した。

10 発掘調査の実施にあたり、常陸太田市立瑞竜中学校ならびに地権者の方々から特段の御理解と御協力を賜った。ここに感謝の意を表したい。

11 発掘調査から報告書刊行に至るまで、次の方々および諸機関から御助言・御協力を賜った。記して感謝の意を表したい。(敬称略 五十音順)

【個人】 稲田健一 瓦吹堅 高橋修

【機関】 茨城県総務企画部文化課 茨城県立太田第一高等学校





12 本書に収録した発掘調査の出土品および記録図面と写真は、常陸太田市教育委員会で保管している。

凡 例

- 1 当遺跡の地区設定は世界測地系(第Ⅸ系)に準拠し、東西・南北5m間隔で設定した。調査区は1から10まで分割されており、例えば「調査区1」のように呼称した。

平成29年度の調査区は、「調査区1」から「調査区7」まで、平成30年度の調査区は、「調査区8」から「調査区10」までである。
- 2 実測図・一覧表で使用した遺構の記号は次のとおりである。

SI - 竪穴建物跡 SB - 掘立柱建物跡 SD - 溝跡 SK - 土坑 SP - ピット
- 3 2については、文化庁文化財部記念物課 監修 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所編2010『発掘調査のてびき - 集落遺跡発掘編 - 整理・報告書編 -』に基づいた。
- 4 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。
 - (1) 遺構全体図は800分の1と200分の1、各遺構の実測図は原則として60分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。
 - (2) 遺物実測図は、原則として3分の1の縮尺とした。
 - (3) 遺構・遺物実測図中の表示は次のとおりである。これら以外は個々の図面に表示した。

 焼土・炭化粒子  竈構築材  黒色処理  須恵器断面

●遺物 K 攪乱
- 5 遺構図に記した方位は、座標北を示している。
- 6 拓本は断面の左側が外面、右側が内面とした。
- 7 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖 29版』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社 2007年)を使用した。
- 8 遺構一覧表・遺物観察表の表記については、次のとおりである。
 - (1) 計測値の()内の数値は現存値を、[]内の数値は推定値を付して示した。
 - (2) 遺物番号は各遺構ごとの通し番号としており、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。
 - (3) 土器の胎土については、専門的な知識が必要な岩石・鉱物の名称を記述せず、含有物の「大きさ」「形」「色」「含有量」を観察して記述することにした。「大きさ」は2mm以上を「礫」、1mm以上2mm未満を「砂粒」、1mm以下を「細砂粒」と三段階に分けた。「含有量」は、特に多いものには「多量」、少ないものには「少量」および「微量」の三段階に分けて記した。また、海綿骨針、雲母、灰色チャートなど胎土分類の指標となる含有物について記した。
- 9 竪穴建物跡の主軸は、竈の中心を通る軸線とし、主軸方向は座標北からみてどの方向にどれだけ振れているかを角度で示した(例 N - 10° - E)。

目 次

巻頭写真

序

例言

凡例

目次

第1章 調査経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	2
第1節 位置と地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
第3章 平成29年度調査の成果	7
第1節 調査の概要	7
第2節 基本層序	7
第3節 遺構と遺物	9
1 調査区1の遺構と遺物	9
(1) 中世の遺構と遺物	9
(2) その他の遺構と遺物	13
2 調査区2の遺構と遺物	13
(1) その他の遺構と遺物	13
3 調査区3の遺構と遺物	14
(1) 古墳時代の遺構と遺物	14
(2) 奈良・平安時代の遺構と遺物	20
(3) その他の遺構と遺物	23
4 調査区4の遺構と遺物	24
5 調査区5の遺構と遺物	24
(1) 縄文時代の遺構と遺物	24
(2) その他の遺構と遺物	30
6 調査区6の遺構と遺物	30
(1) 縄文時代の遺構と遺物	30
(2) その他の遺構と遺物	31
7 調査区7の遺構と遺物	31
(1) 縄文時代の遺構と遺物	31
(2) その他の遺構と遺物	33

第4章 平成30年度調査の成果	33
第1節 調査の概要	33
第2節 基本層序	33
第3節 遺構と遺物	35
1 調査区8の遺構と遺物	35
(1) 奈良・平安時代の遺構と遺物	35
(2) その他の遺構と遺物	39
2 調査区9の遺構と遺物	39
(1) 古墳時代の遺構と遺物	39
(2) 奈良・平安時代の遺構と遺物	41
(3) その他の遺構と遺物	42
3 調査区10の遺構と遺物	42
(1) その他の遺構と遺物	42
第5章 平成29・30年度調査成果の総括	43
写真図版	
抄録	

第1章 調査経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

常陸太田市は、茨城県が行っている道路新設工事の国道293号線バイパスに接続する狭小な市道の拡幅工事を進めている。常陸太田市瑞龍町地内における市道6035号線(瑞龍中道線)は、一部未舗装なうえ、著しく狭隘な区間も散見されるなど、通行上支障をきたす状況にあったことから、現道拡幅による利便性の向上を目的とした改良工事が計画された。

平成28年度、常陸太田市建設部建設課より「埋蔵文化財の所在の有無およびその取扱いについて」による照会が提出された。これを受けて、常陸太田市教育委員会では、茨城県遺跡地図の確認ならびに現地踏査を行ない、工事予定箇所内に瑞龍遺跡(茨城県遺跡地図番号212022)が所在することを確認。包蔵地範囲内で改良工事が計画されたため、工事予定地内に周知の埋蔵文化財包蔵地が所在し、試掘調査を実施し遺構及び遺物包含層の状況を確認する必要がある旨を回答した。

試掘調査は、道路改良が予定されている瑞龍町688ほかにおいて平成28年11月14日に実施。道路の計画法線に沿った形でトレンチ3本を設定し、重機使用により地山面まで掘り下げ、遺構の有無を確認した。試掘によって複数の住居跡・土坑・柱穴と溝跡などが確認され、縄文土器片や土師質土器片等が確認された。

この結果を踏まえて工事主体者である市土木部建設課と協議を行ない、遺構に対する保護措置が困難であることから、発掘調査を実施し、記録保存を行うことで合意した。

これを受けて常陸太田市教育委員会では、瑞龍町688地先の工事対象区域の内、1,200㎡以内を調査対象として発掘調査による記録保存を実施することとし、平成29年10月19日、(有)毛野考古学研究所と業務委託契約を締結。発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査経過

【平成29年度】

平成29年11月 27日から発掘調査を開始、調査区1から重機による表土除去作業を行う。年内は、調査区1と調査区3の調査を終了させ、調査区の埋め戻し作業を行う。

平成30年1月～2月 1月は調査区2から発掘調査を開始、調査区4～7と順次発掘調査を進める。2月19日に瑞龍中学校生徒の遺跡見学を開催する。2月28日に発掘調査を終了する。

【平成30年度】

7月～9月 17日から発掘調査を開始、調査区8・9と重機による表土除去作業を行い、発掘調査を行う。9月に調査区10の重機による表土除去作業と発掘調査を行う。

10月 4日に瑞龍中学校生徒の遺跡見学を開催する。30日に発掘調査を終了する。

第2章 位置と環境

第1節 位置と地理的環境

常陸太田市の位置



第1図 常陸太田市位置図

常陸太田市は、茨城県北東部にあり、県庁所在地の水戸市から北に約20kmに位置している。平成16年の市町村合併では久慈郡金砂郷町、水府村、里美村が編入しており、市域の総面積は371.99km²と茨城県内の自治体では最大面積である。

市域は北部が福島県東白川郡矢祭町、北東部は高萩市、北西部は久慈郡大子町、東部～南東部は日立市、南部は那珂市、西部～南西部は常陸大宮市に接している。

地理的環境

常陸太田市の地形は、北部が山地、中部が丘陵・台地、南部が低地と区分される。久慈川が市域の南を北西から南東に向かって流れており、その久慈川に浅川、山田川、里川の各支流が合流する。それら河川の流域には低地が広がり、現在水田として利用されている。

北部の阿武隈山地は、久慈川の支流をもって区分されている。里川の東が多賀山地、西が久慈山に分けられる。

瑞龍遺跡は常陸太田市の南部にあり、遺跡は里川右岸の幅300～700mの舌状台地の東縁に立地している。標高は約42mで、調査区の現況は畑地である。

調査区付近の台地斜面部には湧水点があり、現在の集落でも井戸水を使用している家庭が多く、「小野七井」と地元で古くから呼称されている小字が示すように、昔から飲み水が豊富な地域であることが分かる。

第2節 歴史的環境

里川兩岸の地域には、瑞龍遺跡を含む数多くの集落遺跡、古墳・横穴墓、中世の城跡がある。そのほか、埴輪窯の元太田山埴輪窯跡<60>、7世紀の須恵器窯である幡山須恵器窯跡<28>の生産遺跡も見つかっている。特に中世の当地域は、佐竹氏の本拠地であるため、小野崎城跡<3>、小野館跡<11>、今宮館跡<10>、馬淵館跡<50>、幡館跡<42>など、佐竹氏に関わる城跡が多い



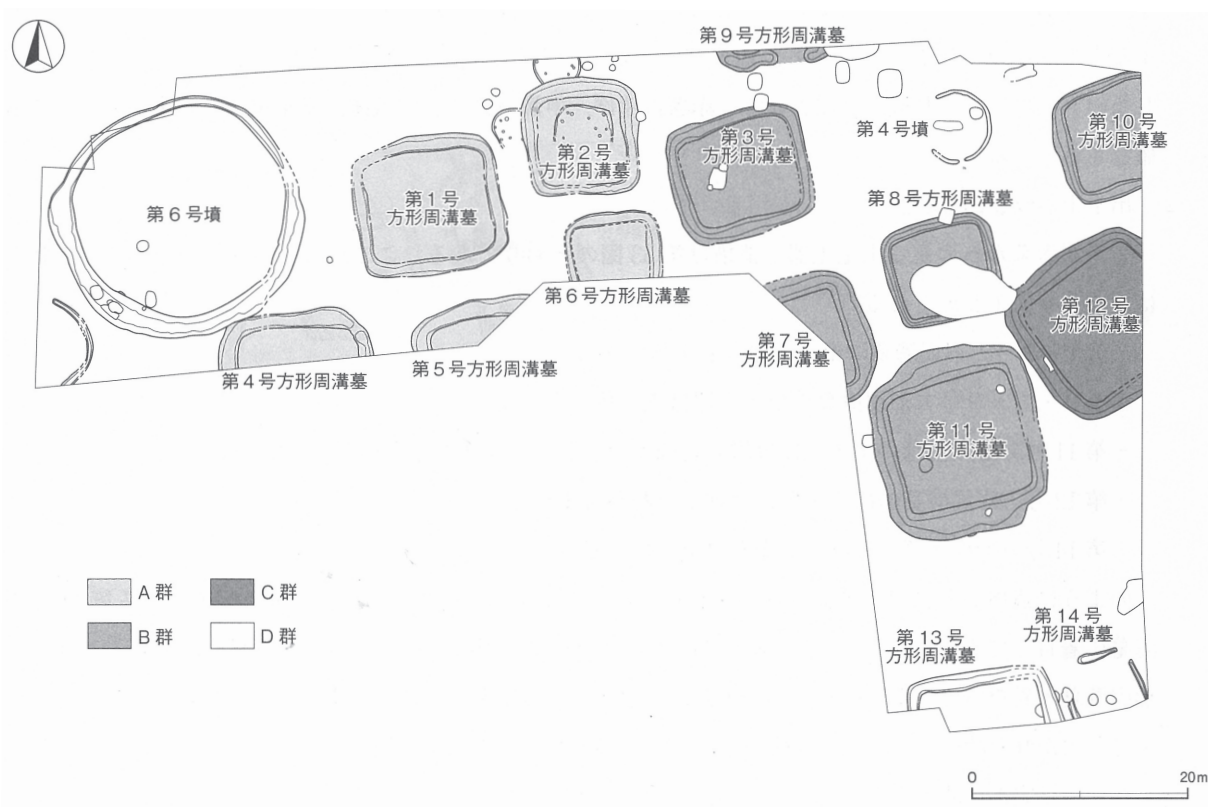
第2図 「小野七井」の位置図

のが特徴的である。ここでは、中世佐竹氏に関連する小野崎城跡の発掘調査および古墳群における近年の調査成果である瑞龍古墳群 < 1 > について詳述する。

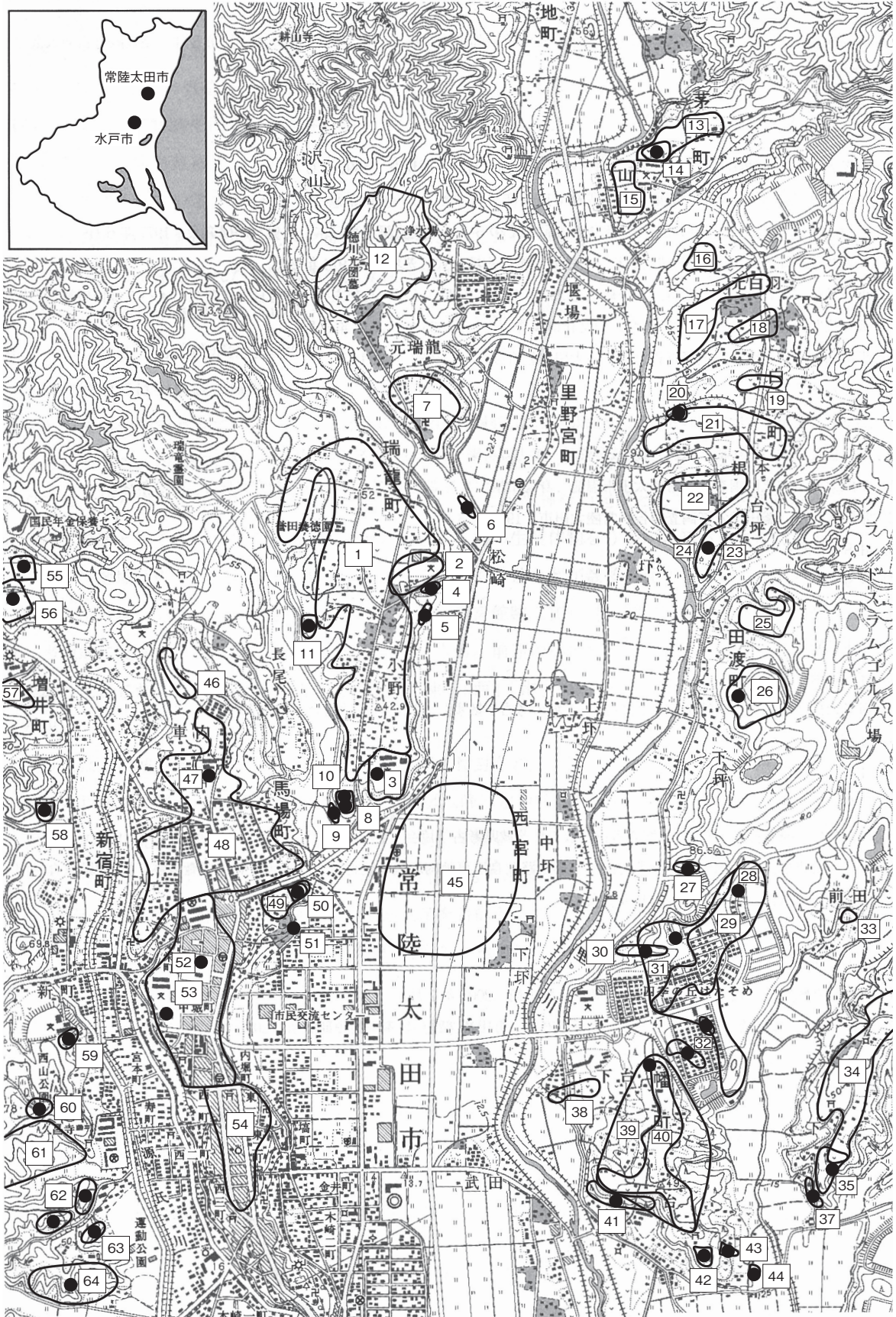
小野崎城跡 昭和 39 年に茨城県立太田第一高等学校の史学クラブによって、中学校建設（現在の瑞龍中学校）に伴い発掘調査が実施されている。その調査概要については、茨城県立太田第一高等学校史学会により、昭和 40 年 3 月に『史考』第 18 号に報告されており、大型の掘立柱建物が数回建て直されていることなどが調査で判明した。中世城に関連する建物があった事が明らかとなった発掘調査である。現在は、小野崎城跡とその周辺の小野館跡や今宮館跡を含めて「瑞龍城砦群」と呼称される（茨城県立太田第一高等学校史学会 1965）。

瑞龍古墳群 平成 26 年に公益財団法人茨城県教育財団によって、県立常陸太田特別支援学校施設整備事業に伴い発掘調査が実施されている。その調査成果については、『瑞龍古墳群』としてすでに報告されている（奥沢 2016）。

この調査で円墳 2 基と方形周溝墓 14 基が確認された事が特筆され、4 世紀前半から方形周溝墓が築造されはじめ、6 世紀前半まで円墳の築造が続いていた事が明らかとなった。この調査では方形周溝墓および円墳と同時期の集落が確認されておらず、同じ台地上で約 1 km 南に位置する瑞龍遺跡に、被葬者集団の集落の可能性を想定している。



第3図 瑞龍古墳群の方形周溝墓と円墳配置図（奥沢 2016 より）



第4図 瑞龍遺跡周辺遺跡分布図(国土地理院 25,000 の1「常陸太田」)

表1 瑞龍遺跡周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代						
		旧	縄	弥	古	奈平	中			近	旧	縄	弥	古	奈平	中
1	瑞龍遺跡		●	●	●	●	●	33	前田遺跡		●					
2	瑞龍古墳群		●	●	●		●	34	高貫遺跡		●	●	●	●		
3	小野崎城跡				●		●	35	高貫古墳群				●			
4	瑞龍A横穴墓群				●			36	高貫東横穴墓群				●			
5	瑞龍B横穴墓群				●			37	高貫西横穴墓群				●			
6	身隠山横穴墓群				●			38	幡台下遺跡		●		●			
7	元瑞龍遺跡			●	●	●		39	幡台古墳群				●	●		
8	白鷺古墳群				●			40	幡台遺跡		●	●	●	●		
9	白鷺横穴墓群				●			41	幡バツケ横穴墓群				●			
10	今宮館跡						●	42	幡館跡							●
11	小野館跡						●	43	森東貝塚		●	●				
12	水戸徳川家墓所							44	築崎貝塚		●	●				
13	山口遺跡					●		45	中井川遺跡					●		
14	茅根城跡						●	46	森後台遺跡				●	●		
15	根小屋遺跡				●	●		47	亀の子山古墳				●			
16	八反内遺跡		●		●	●		48	馬場遺跡		●	●	●	●		
17	元白羽遺跡				●	●		49	馬淵遺跡		●	●	●	●		
18	白羽遺跡				●	●		50	馬淵館跡							●
19	笠松遺跡				●	●		51	馬場横穴				●			
20	根本館跡						●	52	栄町古墳				●			
21	根本遺跡				●	●		53	太田城跡				●			
22	前根本遺跡		●		●	●		54	鯨ヶ丘遺跡				●	●	●	
23	田渡台遺跡				●	●		55	正法院跡							●
24	田渡古墳				●			56	勝楽寺跡							●
25	篠山遺跡				●	●		57	福寿台遺跡				●	●		
26	田渡城跡						●	58	極楽寺跡							● ●
27	幡山北横穴墓群				●			59	馬場横穴墓群				●			
28	幡山須恵器窯跡				●			60	元太田山埴輪窯跡				●			
29	幡山遺跡		●	●	●			61	山吹山横穴墓群				●			
30	幡山西横穴墓群				●			62	所化塚横穴墓群				●			
31	幡山古墳群				●			63	三味堂横穴墓群				●			
32	幡山東横穴墓群				●			64	宮ヶ作横穴墓群				●			

表1と第4図の遺跡番号および本文中の<>の番号は共通している。

参考文献

茨城県教育庁文化課 2001『茨城県遺跡地図(地名表編・地図編)』 茨城県教育委員会
 茨城県立太田第一高等学校 1965『史考』第18号 茨城県立太田第一高等学校
 奥沢哲也 2016『瑞龍古墳群 県立常陸太田特別支援学校施設整備事業地内埋蔵文化財調査報告書』 茨城県教育財団文化財調査報告第415集 公益財団法人茨城県教育財団
 常陸太田市史編さん委員会編 1984『常陸太田市史 通史編 上巻』 常陸太田市役所

第3章 平成29年度調査の成果

第1節 調査の概要

瑞龍遺跡は、常陸太田市南部に位置し、里川右岸の標高約42mの台地縁辺部に立地している。今回の発掘調査は、29.市道6035号線(瑞龍中道線)外道路改良工事に伴うものであり、平成29年度調査の面積は、684.81㎡である。調査区は7か所、現道に沿って細長く設定され、瑞龍中学校に一番近い調査区を「調査区1」とし、それから北に向かって順番に「調査区2」「調査区3」「調査区4」「調査区5」「調査区6」「調査区7」と番号を付けた。調査前の現況はいずれも畑地である。

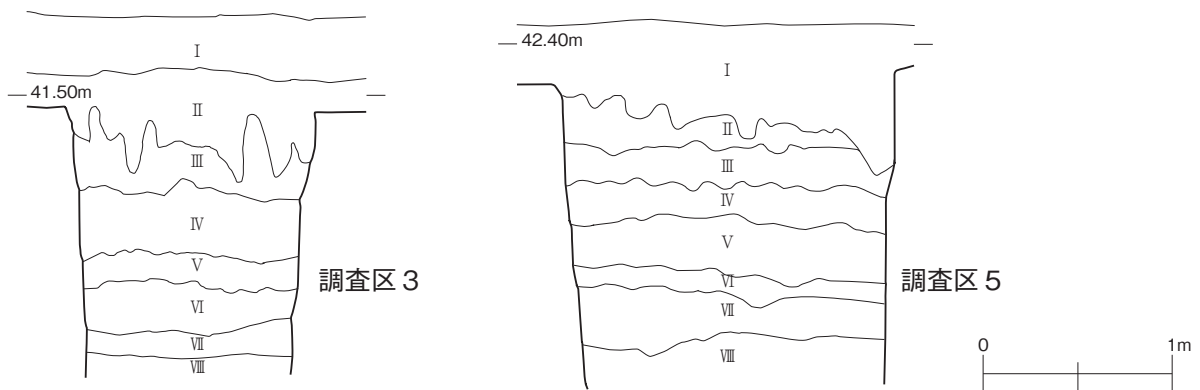
調査の結果、7か所の調査区から竪穴建物跡12棟、溝跡8条、土坑59基、井戸跡2基、ピット188基を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ箱(60×40×20cm)に20箱出土している。主な遺物は、縄文土器(深鉢)、弥生土器(壺)、土師器(杯・高台付杯・甕・甌)、須恵器(杯・甕)、土師質土器(小皿)、石器(台石)などである。

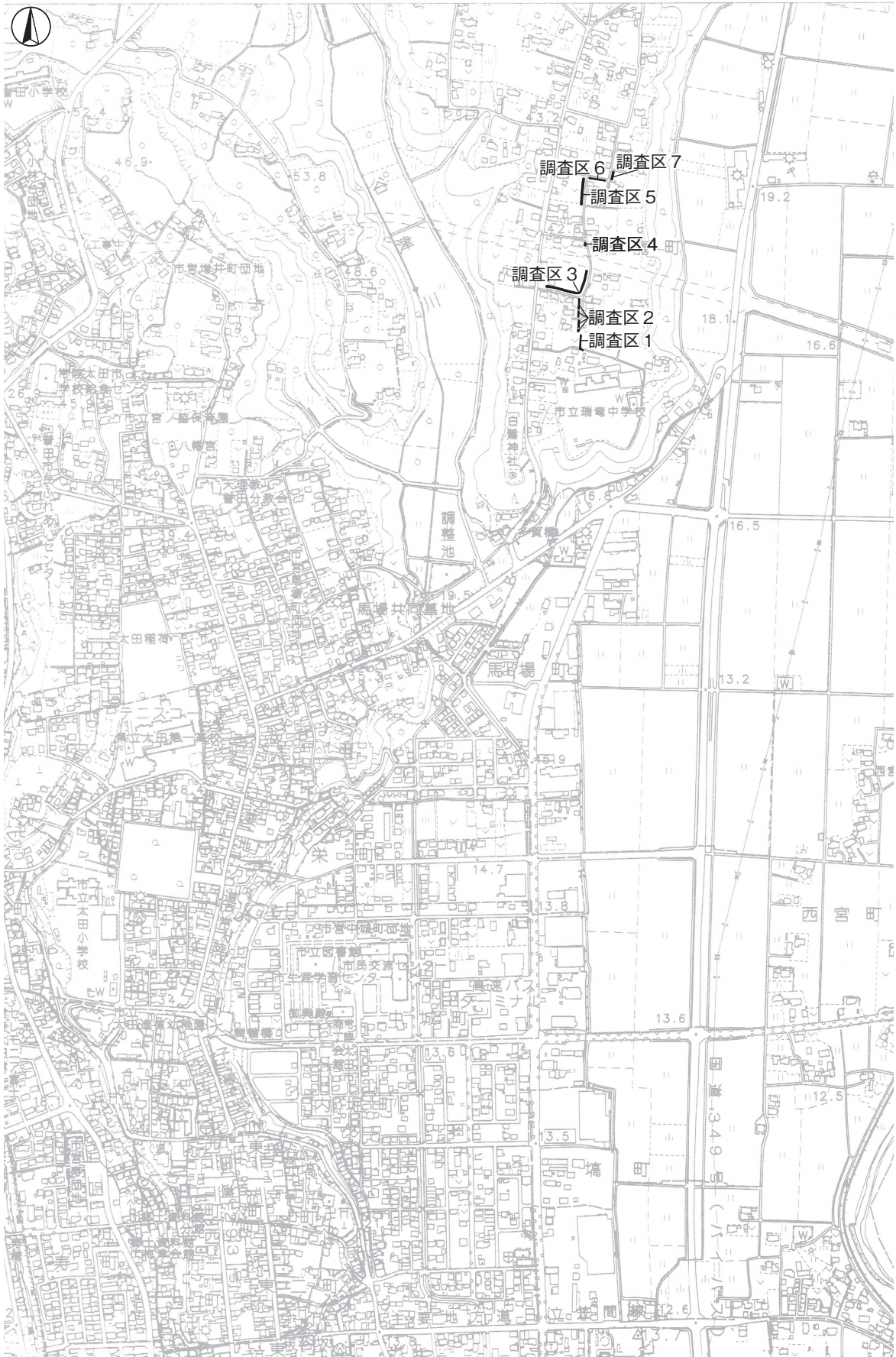
第2節 基本層序

調査区3と調査区5にテストピットを設定し、基本土層の観察と旧石器時代の石器集中地点の有無を確認した。旧石器時代の石器集中地点は確認できない。

第I層が10YR3/2黒褐色土で、現在の畑の耕作土である。第II層が10YR6/6明黄褐色ソフトローム、第III層が10YR6/6明黄褐色ハードローム、第IV層が10YR6/8明黄褐色ハードローム、第V層が10YR7/8黄橙色ハードロームで、鹿沼パミスが少量混じる。第VI層が10YR7/8黄橙色ハードロームで、鹿沼パミスがブロック状に混じる。第VII層が10YR5/6黄褐色ハードローム、第VIII層が10YR8/8黄橙色ハードロームである。



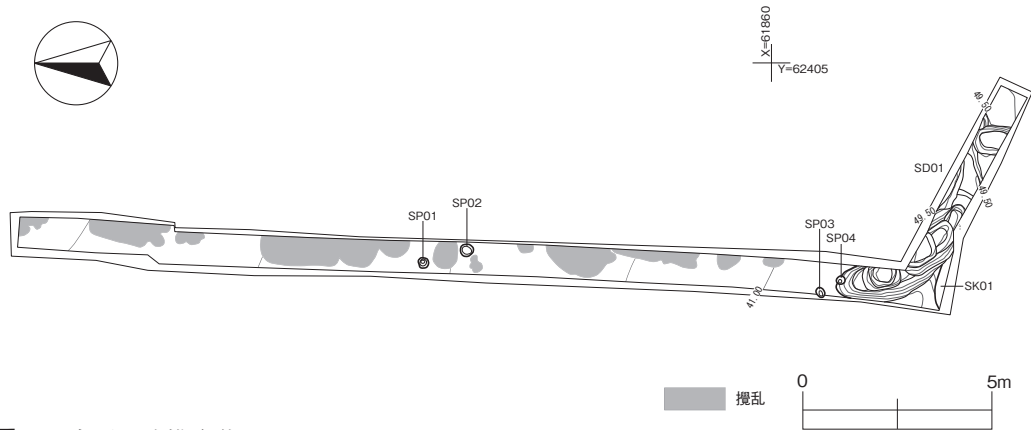
第5図 基本土層図



第6図 平成29年度調査区位置図(都市計画図10,000分の1)

第3節 遺構と遺物

1 調査区1の遺構と遺物



第7図 調査区1遺構全体図

(1) 中世の遺構と遺物

溝跡1条を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

第1号溝跡 (SD1 第8～11図 写真図版1・2)

位置 調査区1の南端に位置している。

規模と形状 約120cmという狭い調査区幅の部分の確認のため、全体の規模および幅は不明である。底面は連続した土坑状を呈しており、掘り返しも認められる。深さは一定しておらず、一番最深で130cmである。

覆土 第I層は現在の畑の耕作土である黒褐色(10YR3/2)土である。第II層は調査区1に認められ、旧表土と考えられる黒褐色(10YR3/1)土である。溝はこの層を掘り込んで構築されている。第IV層は地山の黄褐色(10YR5/8)ソフトロームである。覆土は黒色土および黒褐色土を呈しており、全体的にロームブロックの含有量は少ない。第1層は、どの土層断面でも水平堆積が認められる粘性の強い、固く締った粘質土である。土層断面Dラインの第4層には、鉄分の沈殿が認められる。

土層解説(土層断面Aライン)

- | | | | |
|----|---------|-------|---|
| 1 | 10YR4/2 | 灰黄褐色土 | 粘性の強い粘質土 鉄分の沈殿が多く認められる |
| 2 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | 含有物がほとんど認められない 締りあり |
| 3 | 10YR2/1 | 黒色土 | 含有物がほとんど認められない 締りあり |
| 4 | 10YR3/1 | 黒褐色土 | 含有物がほとんど認められない 締りあり |
| 5 | 10YR3/1 | 黒褐色土 | ロームブロック(径5mm)・ローム粒子・礫微量 締りあり |
| 6 | 10YR3/1 | 黒褐色土 | ロームブロック(径5～10mm)少量 締りあり |
| 7 | 10YR2/1 | 黒色土 | 含有物がほとんど認められない 締りあり |
| 8 | 10YR2/1 | 黒色土 | ロームブロック(径5～10mm)・ローム粒子多量 ロームブロック(径5mm)微量 締りあり |
| 9 | 10YR2/1 | 黒色土 | ローム粒子少量 締りあり |
| 10 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | 含有物がほとんど認められない 締りあり |
| 11 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | ロームブロック(径5mm)・ローム粒子中量 締りあり |

- 12 10YR3/1 黒褐色土 砂岩ブロック(径5mm・径5cm)微量 ローム粒子微量 締りあり
- 13 10YR3/1 黒褐色土 含有物がほとんど認められない 締りあり
- 14 10YR3/2 黒褐色土 含有物がほとんど認められない 締りあり
- 15 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック(径1cm)少量 ロームブロック(径5cm)微量 締りあり
- 16 10YR2/1 黒色土 含有物がほとんど認められない 締りあり
- 17 10YR2/1 黒色土 ローム粒子少量 締りあり

土層解説(土層断面Bライン)

- I 10YR3/2 黒褐色土 現在の畑の耕作土 締り弱い
- II 10YR3/1 黒褐色土 旧地表土 締りあり
- IV 10YR5/8 黄褐色土 旧地表土 締りあり

土層解説(土層断面Cライン)

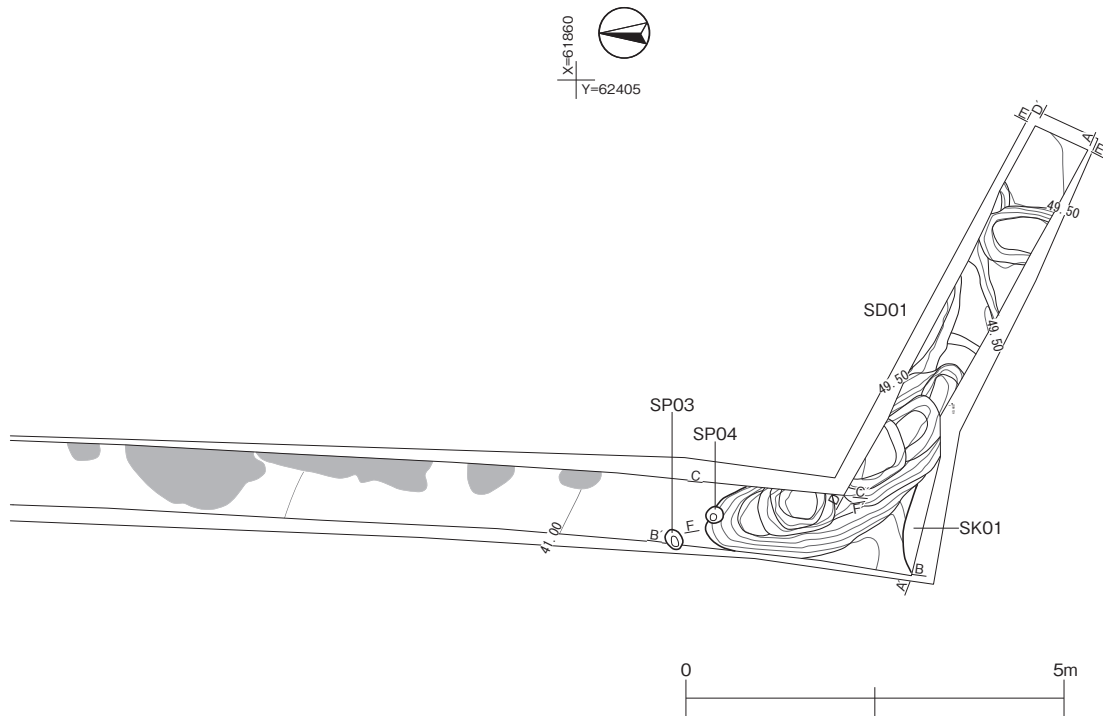
- 1 10YR2/1 黒色土 含有物が認められない 締りあり
- 2 10YR3/2 暗褐色土 ローム粒子多量 締りあり
- 3 10YR2/1 黒色土 ローム粒子少量 締りあり

土層解説(土層断面Dライン)

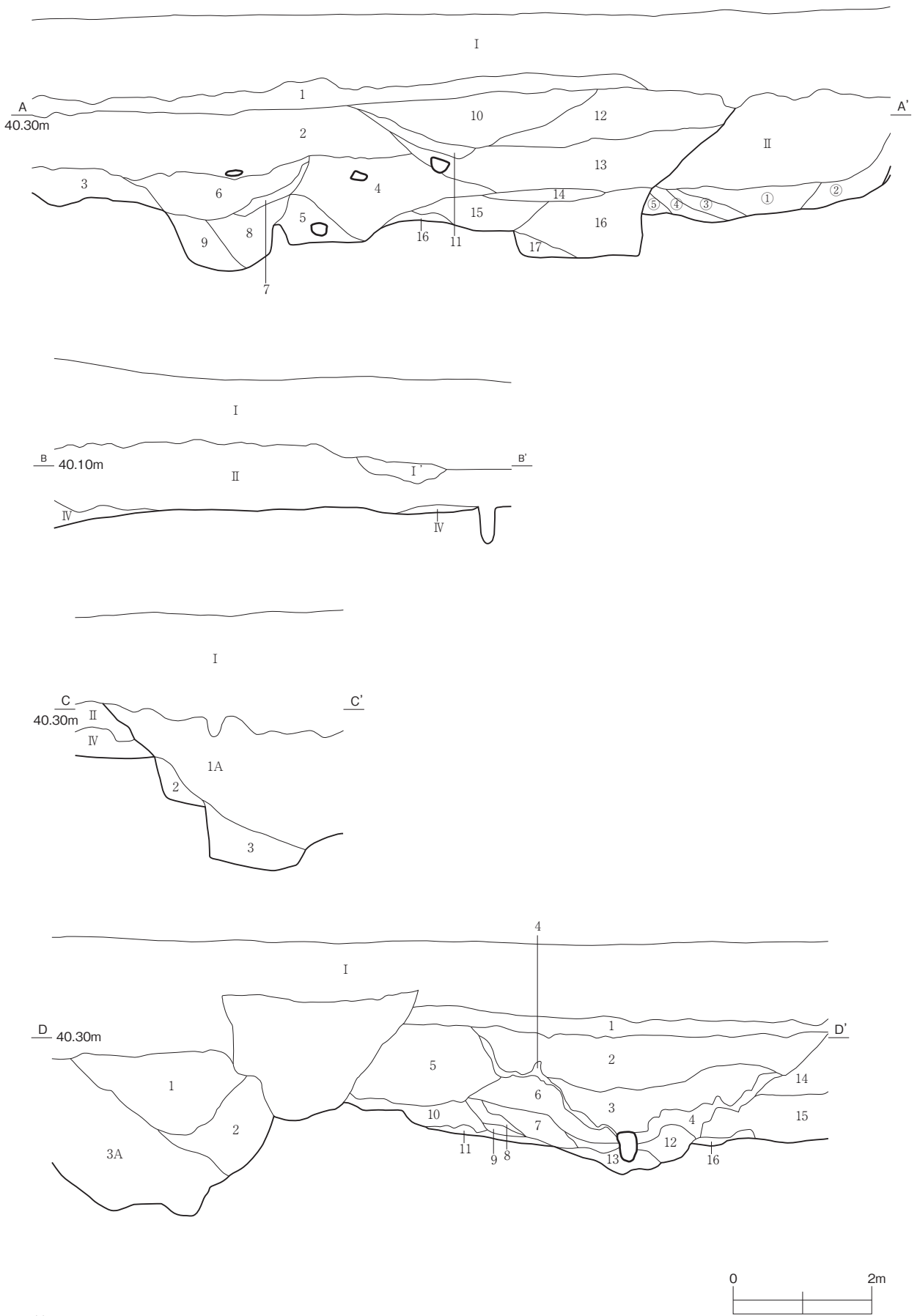
- 1 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性の強い粘質土 鉄分の沈殿が多く認められる
- 2 10YR3/2 黒褐色土 含有物がほとんど認められない 締りあり
- 3 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子微量 締りあり 3A層は第3層より少し色調が明るい
- 4 10YR3/2 黒褐色土 鉄分の沈殿が多く認められる 締りあり
- 5 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック(径5mm)微量 締りあり
- 6 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック(径5mm～1cm)少量 ロームブロック(径2cm)微量 締りあり
- 7 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック(径5mm～1cm)多量 ロームブロック(径3cm)微量 締りあり
- 8 10YR3/1 黒褐色土 含有物がほとんど認められない 締りあり
- 9 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック(径5mm)・ローム粒子微量 締りあり
- 10 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック(径5mm)微量 ローム粒子少量 締りあり
- 11 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒子多量 締りあり
- 12 10YR3/1 黒褐色土 礫微量 締りあり
- 13 10YR2/1 黒色土 ローム粒子多量 ロームブロック(径5mm)微量 締りあり
- 14 10YR3/1 黒褐色土 含有物がほとんど認められない 締りあり
- 15 10YR2/1 黒色土 含有物が認められない 締りあり
- 16 10YR2/1 黒色土 ローム粒子多量 締りあり

土層解説(土層断面Dライン)

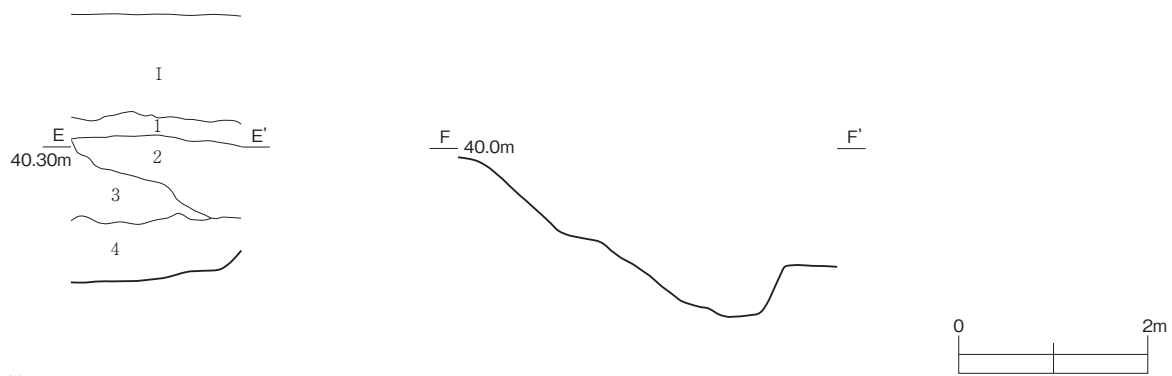
- 1 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性の強い粘質土 鉄分の沈殿が多く認められる
- 2 10YR3/2 黒褐色土 含有物がほとんど認められない 締りあり
- 3 10YR3/1 黒褐色土 含有物がほとんど認められない 締りあり
- 4 10YR2/1 黒色土 含有物がほとんど認められない 締りあり



第8図 第1号溝跡実測図(1)



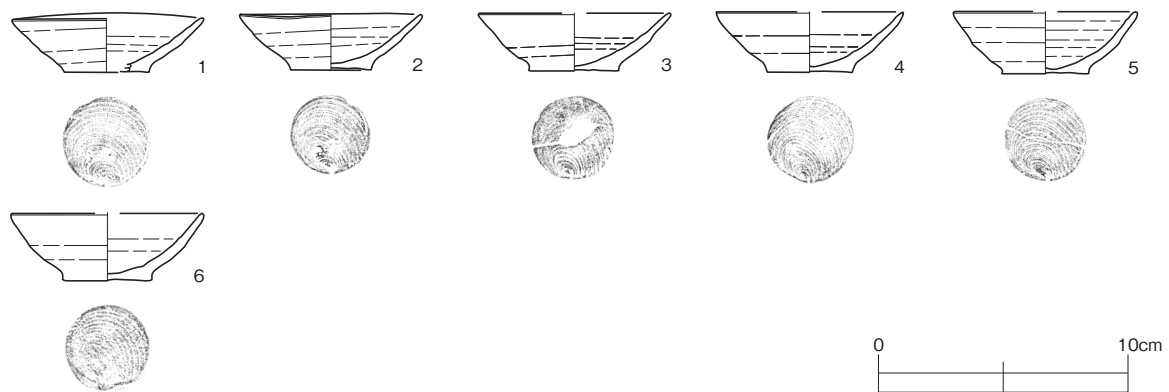
第9図 第1号溝跡実測図(2)



第10図 第1号溝跡実測図(3)

遺物出土状況 土師質土器の小皿が、土層断面Aラインの第10層上面相当の位置から、重機による表土除去作業の際に、重なるようにまとまって出土している。

所見 土師質土器の小皿の年代は15世紀代であり、この溝はその頃には埋没していたと考えられる。



第11図 第1号溝跡出土遺物実測図

表2 第1号溝跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	備考
1	土師質土器	小皿	7.6	2.3	3.4	白色細砂粒微量 砂粒少量	透明細 7.5YR7/4 にぶい橙色	底部回転糸切り離し	
2	土師質土器	小皿	7.2	2.3	3.2	白色細砂粒微量 砂粒少量	透明細 7.5YR7/4 にぶい橙色	底部回転糸切り離し	
3	土師質土器	小皿	[7.6]	2.3	3.6	白色細砂粒微量 砂粒少量	透明細 7.5YR7/4 にぶい橙色	底部回転糸切り離し	
4	土師質土器	小皿	[7.4]	2.4	3.4	白色細砂粒微量 砂粒少量	透明細 7.5YR7/4 にぶい橙色	底部回転糸切り離し	
5	土師質土器	小皿	[7.3]	2.5	3.4	白色細砂粒微量 砂粒少量	透明細 7.5YR7/4 にぶい橙色	底部回転糸切り離し	
6	土師質土器	小皿	[7.6]	2.7	3.6	白色細砂粒微量 砂粒少量	透明細 7.5YR7/4 にぶい橙色	底部回転糸切り離し	

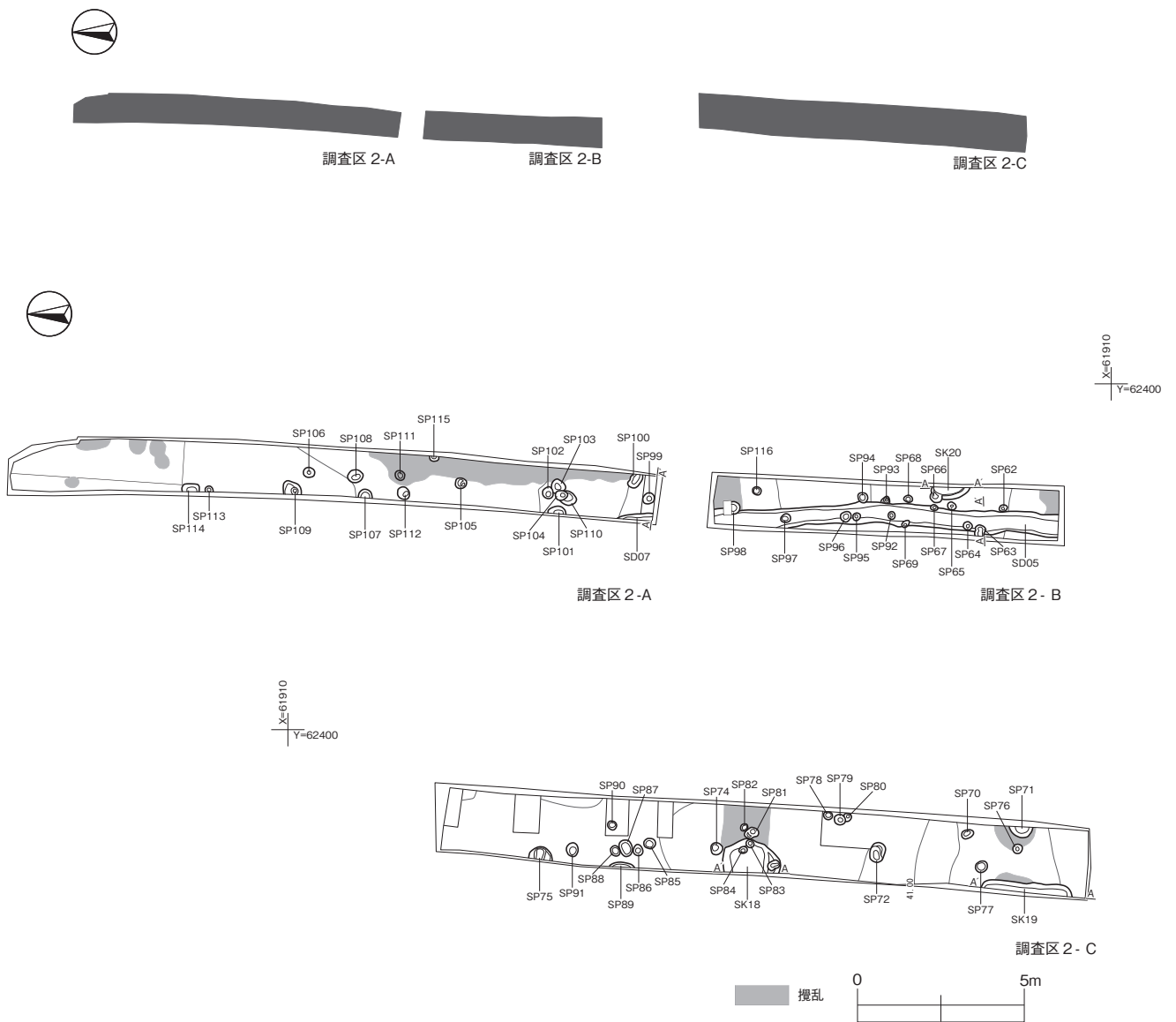
(2) その他の遺構と遺物 (第7図)

調査区1からは、時期不明の土坑1基とピットが4基が確認されている。ピットの径は約20cmであり、覆土は黒褐色土(10YR3/2)である。

2 調査区2の遺構と遺物

(1) その他の遺構と遺物 (第12図 写真図版3)

調査区2からは、時期不明の溝跡2条、土坑3基、ピット56基が確認されている。ピットの径は約20～80cmであり、覆土は黒褐色土(10YR3/1・10YR3/2)である。



第12図 調査区2遺構全体図

3 調査区3の遺構と遺物

(1) 古墳時代の遺構と遺物

竪穴建物跡2棟を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

第1号竪穴建物跡(第13・15図 写真図版4)

位置 調査区3中央部に位置している。

重複関係 第2号竪穴建物跡より新しく、第6号土坑より古い

規模と形状 東西4.40m、南北1.00m以上で形状は不明である。深さは34cmである。

主軸方向 不明である。

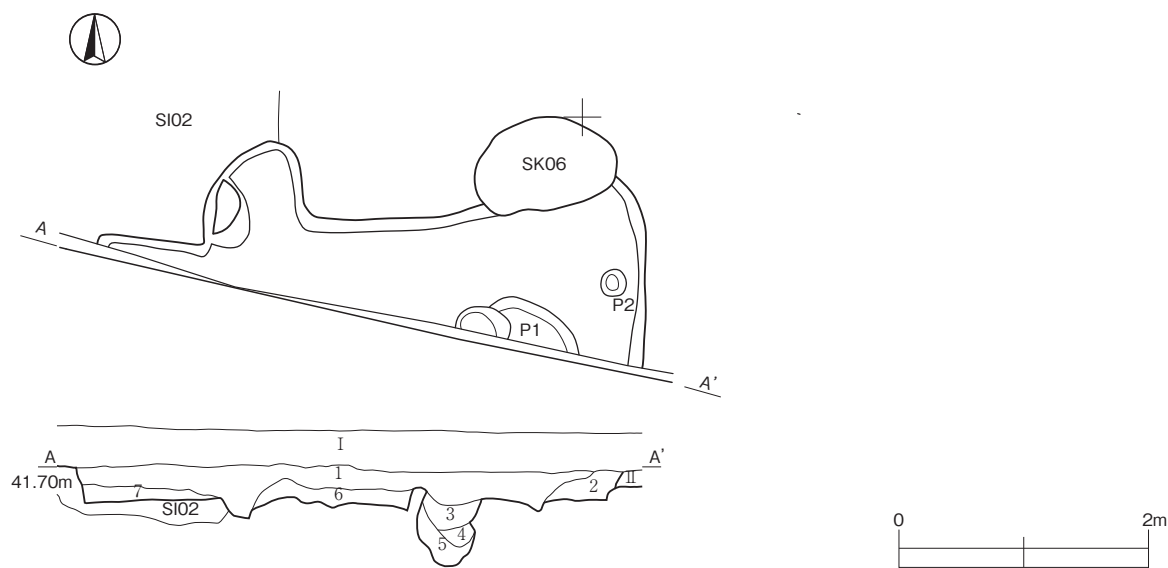
竈 北壁中央部に位置している。

ピット 2か所。P1は主柱穴と考えられる。

覆土 自然堆積である。

遺物出土状況 遺物は覆土中から出土している。

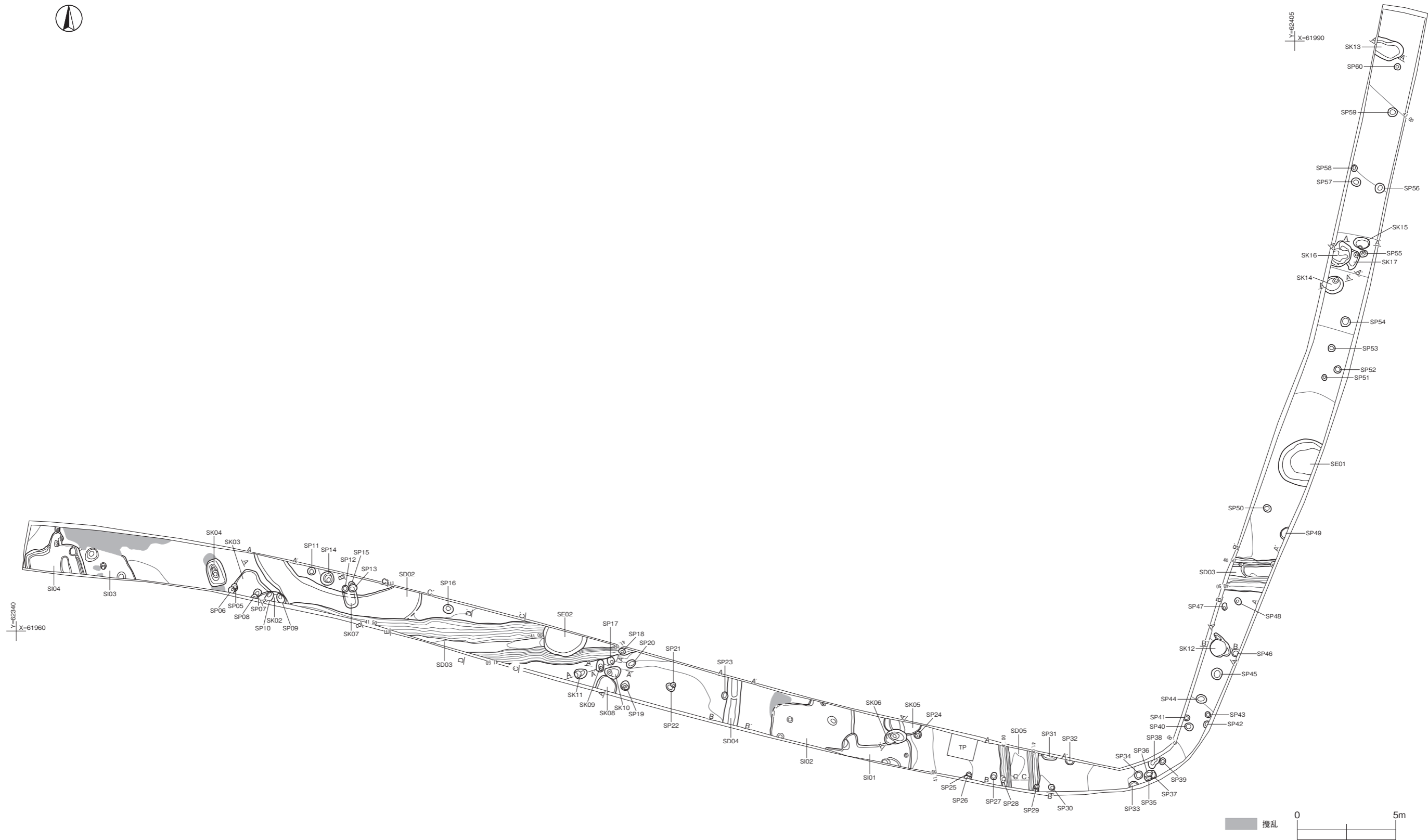
所見 時期は、第2号竪穴建物跡より新しく、7世紀後半と考えられる。



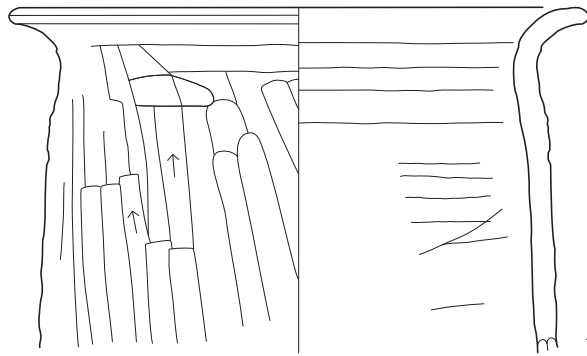
土層解説

- | | | | | |
|---|---------|------|-----------------------|------|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | ローム粒子少量 | 締りあり |
| 2 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | ローム粒子多量 | 締りあり |
| 3 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | ローム粒子微量 | 締りあり |
| 4 | 10YR3/1 | 黒褐色土 | 含有物がほとんど認められない | 締りあり |
| 5 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | ロームブロック(径2mm)・ローム粒子多量 | 締りあり |
| 6 | 10YR4/4 | 褐色土 | ロームブロック(径5mm)・ローム粒子多量 | 締りあり |
| 7 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | ロームブロック(径5mm)微量 | 締りあり |

第13図 第1号竪穴建物跡実測図



第 14 図 調査区 3 遺構全体図



第15図 第1号堅穴建物跡出土遺物実測図



表3 第1号堅穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	備考
1	土師器	甕	[23.0]	(13.8)	-	白色・透明細砂粒少量	橙色 (7.5YR6/6)	口縁部外内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	

第2号堅穴建物跡 (SI2 第16・17図 写真図版5・6)

位置 調査区3中央部に位置している。

重複関係 第1号堅穴建物跡より古い。

規模と形状 東西4.22m、南北2.00m以上で形状は不明である。深さは40cmである。

主軸方向 不明である。

竈 北壁中央部に位置している。

ピット 3か所。P1とP2は支柱穴と考えられる。

覆土 自然堆積である。

遺物出土状況 遺物は覆土中から出土している。

所見 時期は、第1号堅穴建物跡より古く、7世紀前半と考えられる。

土層解説

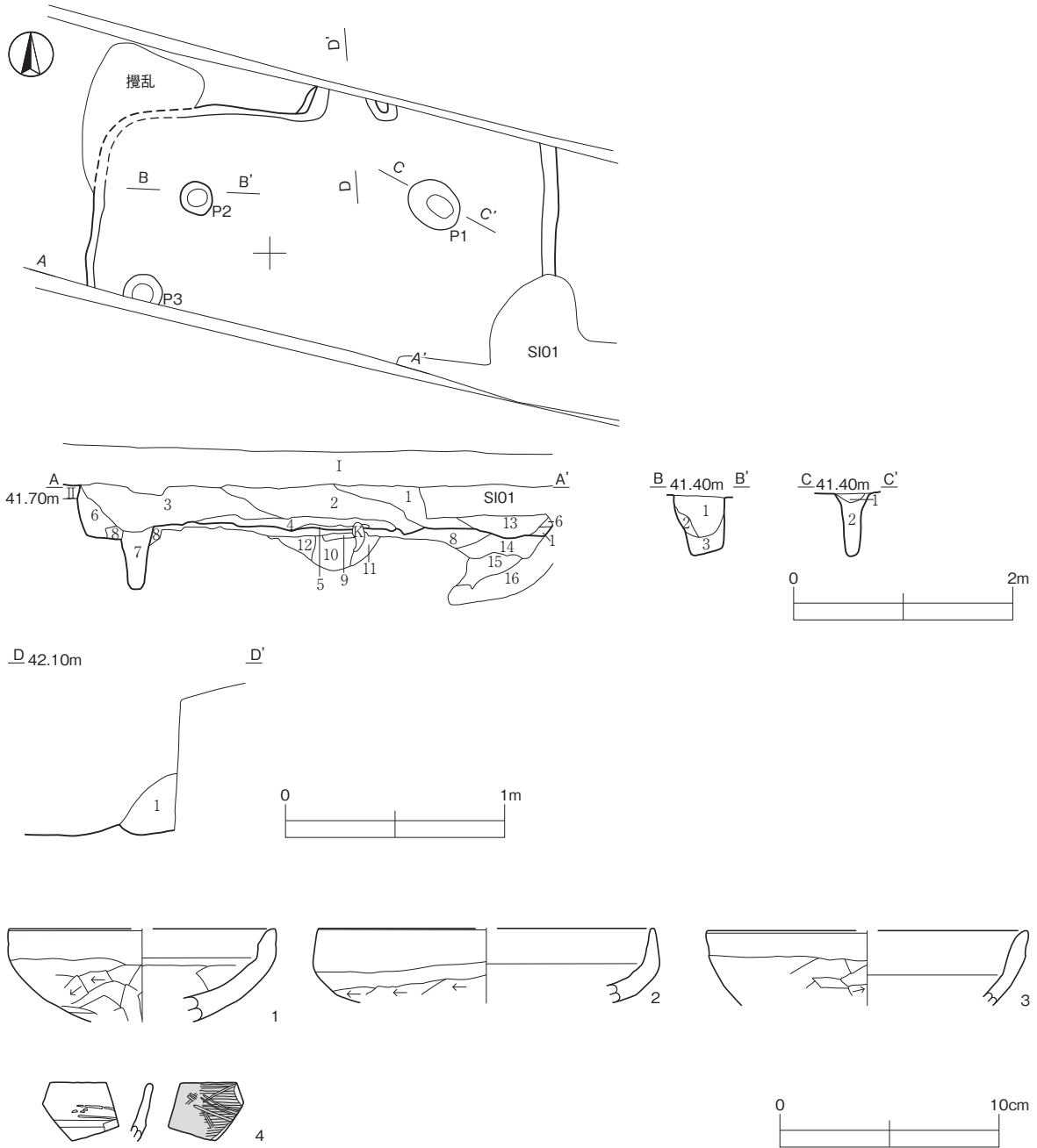
- 1 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子微量 締りあり
- 2 10YR3/2 黒褐色土 含有物がほとんど認められない 締りあり
- 3 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック(径5mm)微量 ローム粒子少量 締りあり
- 4 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子中量 締りあり
- 5 10YR2/1 黒色土 含有物がほとんど認められない 締り強い
- 6 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック(径5mm)・ローム粒子多量 締りあり
- 7 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子多量 締りあり
- 8 10YR3/2 黒褐色土 ロームとの混合土 締り強い 貼り床
- 9 10YR2/1 黒色土 含有物がほとんど認められない 締りあり 貼り床
- 10 10YR4/4 暗褐色土 ローム粒子多量 締りあり 貼り床
- 11 10YR3/1 黒褐色土 含有物がほとんど認められない 締りあり 貼り床
- 12 10YR3/2 黒褐色土 ロームとの混合土 締りあり 貼り床
- 13 10YR4/4 褐色土 灰色粘土ブロック(径2cm) 灰色粘土粒子中量 ローム粒子・焼土粒子少量 締りあり 貼り床
- 14 10YR3/3 黒褐色土 ロームブロック(径5mm)・ローム粒子多量 締りあり 貼り床
- 15 10YR5/6 黄褐色土 ソフトローム 締りあり 貼り床
- 16 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック(径5cm)微量 ロームブロック(径5mm)中量 ローム粒子多量 締りあり 貼り床

ピット土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子微量 締りあり
- 2 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子多量 締りあり
- 3 10YR3/2 暗褐色土 ローム粒子少量 締りあり

竈土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子中量 締りあり



第 16 図 第 2 号竪穴建物跡実測図・出土遺物実測図 (1)



第17図 第2号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

表4 第2号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	備考
1	土師器	杯	[12.5]	(4.2)	-	黒雲母少量 海綿骨針微量 白色細砂粒微量	浅黄橙色 (10YR8/4)	非ロクロ丸底 口縁部外内面横ナデ 体部 外面ヘラ削り 内面横ナデ・ヘラナデ	
2	土師器	杯	[15.0]	(3.4)	-	黒雲母微量 海綿骨針微量 白色礫少量 白色砂粒・細砂粒多量	にぶい褐色 (7.5YR5/3)	非ロクロ丸底 口縁部外内面横ナデ 体部 外面ヘラ削り 内面ナデ	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	備考
3	土師器	杯	[14.2]	(3.4)	-	黒雲母少量 海綿骨針微量 白色細砂粒少量 透明細砂粒多量	浅黄橙色 (10YR8/3)	非ロクロ丸底 口縁部外内面横ナデ 体部 外面ヘラ削り 内面横ナデ	
4	土師器	杯	-	-	-	海綿骨針多量 白色細砂 粒少量	灰黄褐色 (10YR5/2)	口縁部外面横ナデ 内面横方向のヘラ磨き 炭素吸引の黒色処理 (N1.5/ 黒色)	
5	土師器	甕	[21.2]	(30.0)	7.2	海綿骨針極めて微量 白 色礫微量 白色砂粒少量 透明砂粒微量	明褐色 (10YR5/6)	口縁部外内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	
6	土師器	甕	-	(24.0)	[8.4]	白色細砂粒少量 透明細 砂粒多量	橙色 (7.55YR6/6)	体部外面ヘラ削り 内面ナデ	
7	土師器	甌	-	(24.1)	[7.6]	白色細砂粒少量 透明細 砂粒多量	橙色 (7.55YR6/6)	体部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	

(2) 奈良・平安時代の遺構と遺物

堅穴建物跡2棟と溝跡1条を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

ア 堅穴建物跡

第3号堅穴建物跡 (SI3 第18・19図 写真図版6)

位置 調査区3西部の調査区9との境に位置している。

重複関係 第4号堅穴建物跡より古い。

規模と形状 東西2.14m以上、南北1.44m以上で形状は不明である。深さは25cmである。

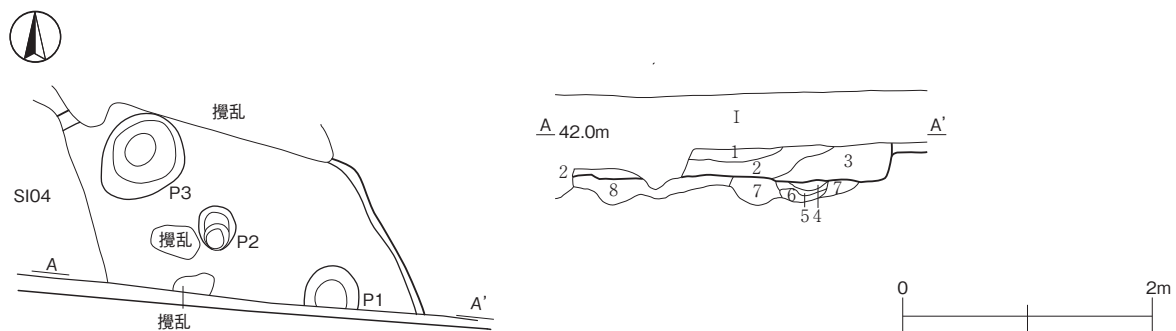
主軸方向 不明である。

ピット 3か所。

覆土 自然堆積である。

遺物出土状況 遺物は覆土中から出土している。

所見 時期は、第4号堅穴建物跡より古く、7世紀末～8世紀初頭と考えられる。



土層解説

- 1 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック(1cm)・ロームブロック(径5mm)・ローム粒子微量 締りあり
- 2 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック(径5mm)微量 ローム粒子中量 締りあり
- 3 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック(径5mm)少量 ローム粒子多量 締り強い 貼り床
- 4 10YR2/1 黒色土 ローム粒子多量 締りあり

第18図 第3号堅穴建物跡実測図

- 5 10YR3/2 黒色土 ロームブロック(径5mm)少量 ローム粒子多量 締り強い 貼り床
- 6 10YR5/6 黄褐色土 ロームと黒褐色土の混合土 締り強い 貼り床
- 7 10YR4/6 褐色土 黒褐色土の混合土 貼り床
- 8 10YR3/2 黒褐色土 ロームとの混合土 締り強い 貼り床



第19図 第3号堅穴建物跡出土遺物実測図

表5 第3号堅穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	備考
1	土師器	杯	[16.6]	(3.1)	-	黒雲母少量 海綿骨針微量 白色細砂粒微量 透明細砂粒少量	浅黄橙色 (10YR8/3)	非ロクロ丸底 口縁部外内面横ナデ 外面ヘラ削り 内面横ナデ 内面の一部に斜方向のナデ	体部

第4号堅穴建物跡 (SI4 第20・21図 写真図版6・7)

位置 調査区3西部の調査区9との境に位置している。

重複関係 第3号堅穴建物跡より新しい。

規模と形状 東西2.84m、南北1.48m以上で形状は不明である。深さは25cmである。

主軸方向 不明である。

ピット 2か所。

壁溝 東壁と北西隅に認められる。

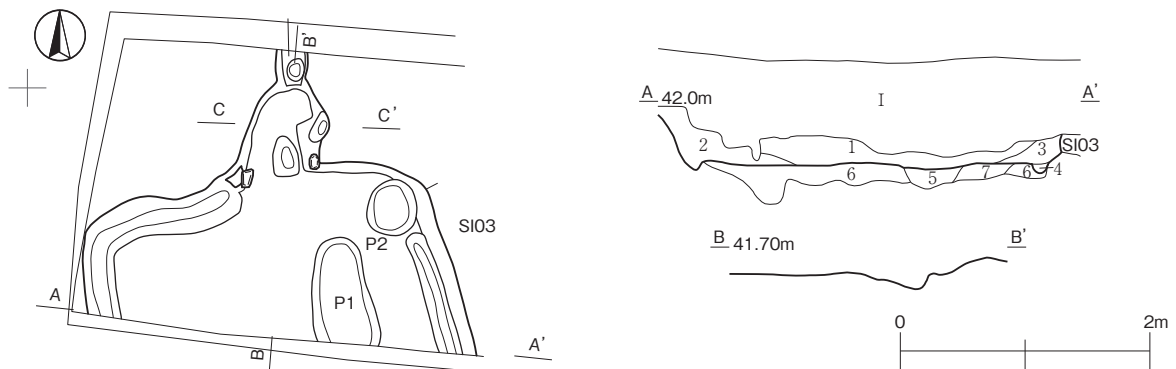
覆土 自然堆積である。

遺物出土状況 遺物は覆土中から出土している。

所見 時期は、第4号堅穴建物跡より新しく、9世紀代と考えられる。

土層解説

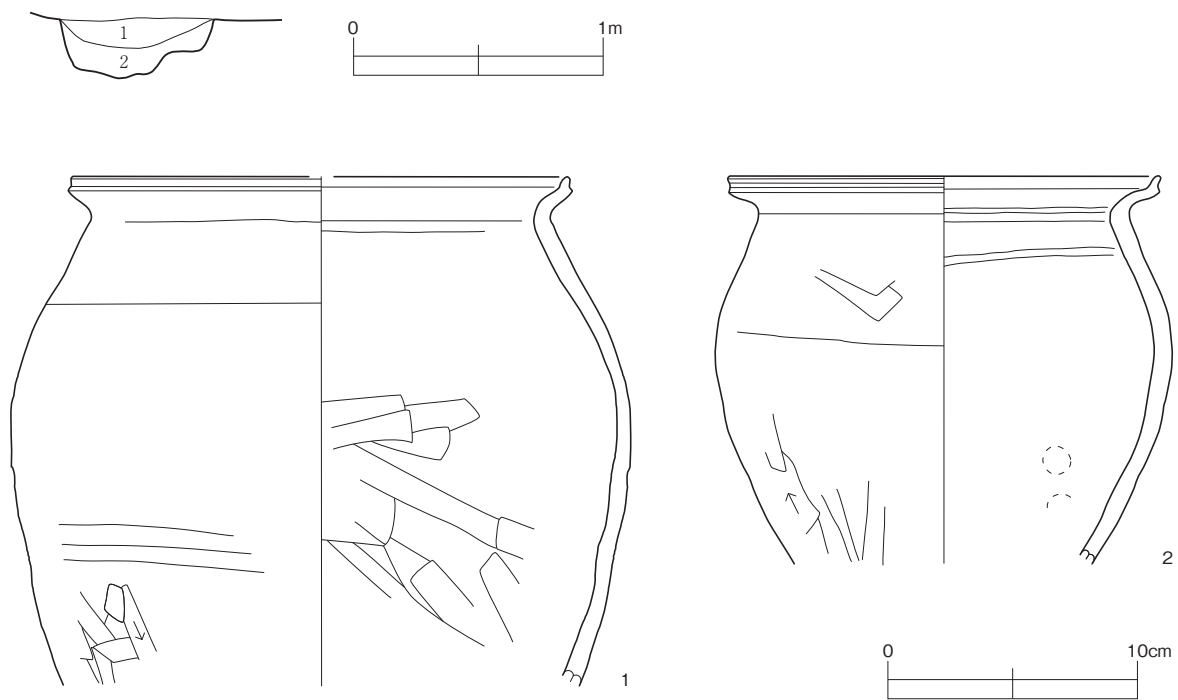
- 1 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒子微量 炭化粒子少量 締りあり
- 2 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック(径5mm)・ローム粒子微量 締りあり
- 3 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子微量 締りあり
- 4 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子多量 締りあり
- 5 10YR3/2 黒色土 ロームブロック(径5mm～1cm)微量 締り強い
- 6 10YR6/6 明褐色土 ロームと黒褐色土の混合土 締り強い 貼り床
- 7 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック(径5mm～1cm)多量 締り強い 貼り床



第20図 第4号堅穴建物跡実測図(1)

C 41.90m

C'



第21図 第4号竪穴建物跡実測図(2)・出土遺物実測図

表6 第4号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	備考
1	土師器	甕	[19.8]	(20.2)	-	黒雲母少量 海綿骨針微量 白色細砂粒微量 透明細砂粒多量	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	口縁部外内面横ナデ 外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	
2	土師器	甕	[17.2]	(15.4)	-	黒雲母少量 海綿骨針微量 白色細砂粒多量 透明細砂粒多量	橙色 (7.5YR6/6)	口縁部外内面横ナデ 外面ヘラ削り 内面ヘラナデ・ナデ 指頭押圧	

イ 溝跡

第3号溝跡(SD3 第14・22図 写真図版8～10)

位置 調査区3中央部に位置する。

重複関係 第2号井戸跡より古い

規模と形状 長さ約50mまで確認し、東西両端ともに調査区域外に延びている。幅160～210cm、深さ75cmである。断面形は逆台形である。

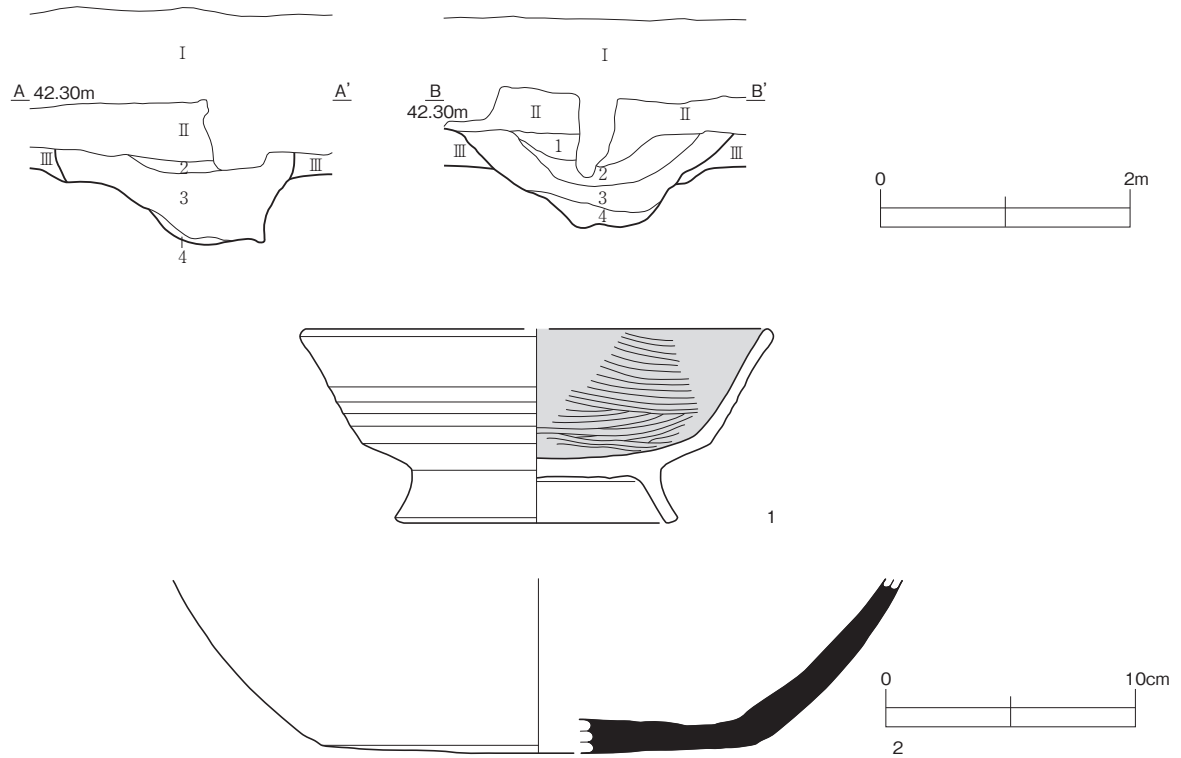
覆土 自然堆積である。

遺物出土状況 遺物は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀代と考えられる。

土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色土 含有物がほとんど認められない 締りあり
- 2 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子中量 締りあり
- 3 10YR3/1 黒褐色土 含有物がほとんど認められない 締りあり
- 4 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子多量 締りあり



第 22 図 第 3 号溝跡実測図

表 7 第 4 号竪穴建物跡出土遺物観察表

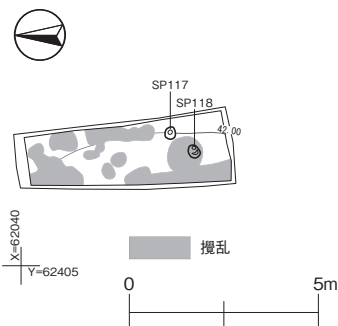
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	備考
1	土師器	高台付杯	[18.8]	7.7	[11.2]	白色細砂粒微量 透明細砂粒多量	浅黄橙色 (7.5YR8/6)	ロクロ成形 内面ヘラミガキ	
2	須恵器	甕	-	(6.8)	[17.2]	白色細砂粒多量 透明細砂粒多量	橙色 (N5/)	内面ナデ	

(3) その他の遺構と遺物 (第 14 図)

調査区 3 からは、時期不明の溝跡 3 条、土坑 16 基、井戸跡 2 基、ピット 56 基を確認した。ピットの径は約 20 ~ 40cm であり、覆土は黒褐色土 (10YR3/1) と暗褐色土 (10YR3/3) である。

4 調査区4の遺構と遺物 (第23図 写真図版12)

調査区4からは、時期不明のピット2基を確認した。ピットの径は約20cmであり、覆土は暗褐色土(10YR3/3)である。



第23図 調査区4遺構全体図

5 調査区5の遺構と遺物

(1) 縄文時代の遺構と遺物

竪穴建物跡3棟、土坑2基を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

ア 竪穴建物跡

第5号竪穴建物跡 (第24・26図 写真図版12・13)

位置 調査区5中央部に位置している。

重複関係 第138・139号ピットより古い

規模と形状 東西1.28m以上、南北2.90mで、形状は円形か楕円形である。深さは28cmである。

炉 地床炉で、中央部に位置している。

ピット 7か所。壁際に配置されている。

覆土 自然堆積である。

遺物出土状況 遺物は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半と考えられる。

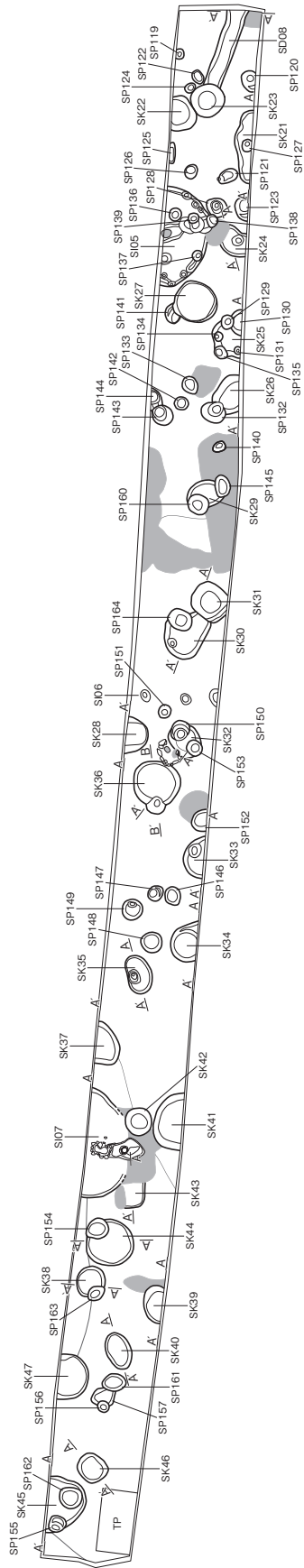


第24図 第5号竪穴建物跡実測図

表8 第5号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	白色砂粒・透明細砂粒多量 黄褐色砂粒多量	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	無節縄文Rの上に太目の沈線で楕円形区画	

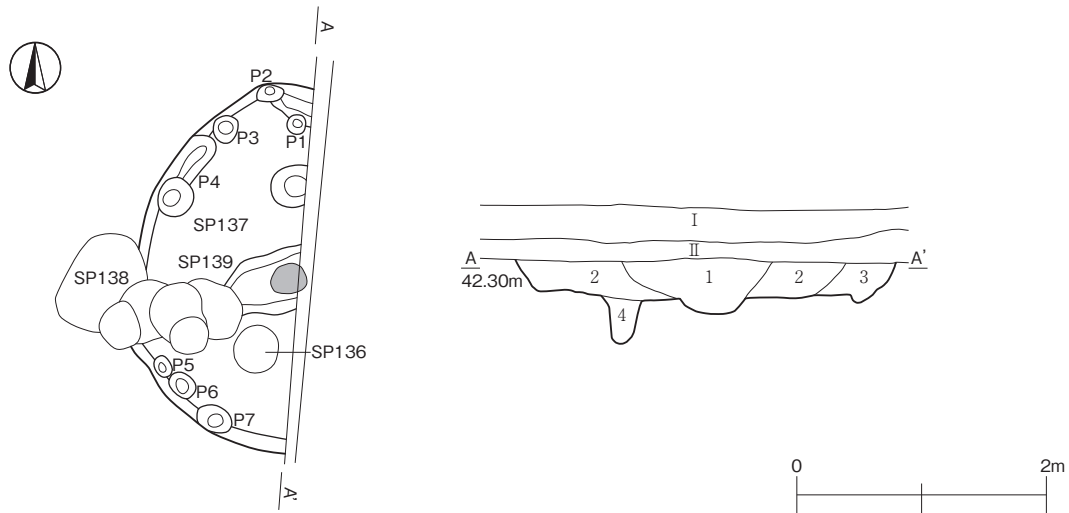
X=62150
Y=62410



第 25 図 調査区 5 遺構全体図

土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子微量 締り強い
- 2 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子多量 締り強い
- 3 10YR3/4 暗褐色土 ロームブロック(径5mm)少量 ローム粒子多量 締り強い
- 4 10YR4/4 褐色土 ローム粒子多量 締りあり



第26図 第5号竪穴建物跡実測図

第6号竪穴建物跡 (第27図 写真図版13)

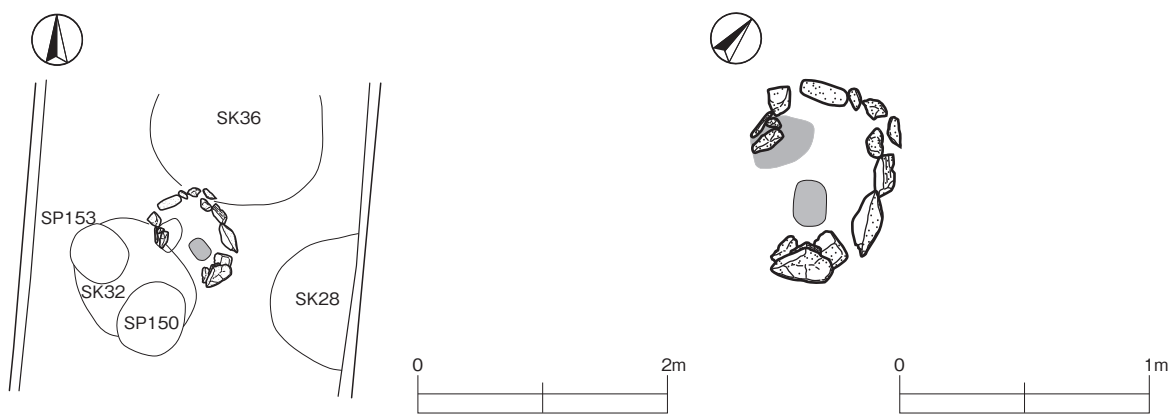
位置 調査区5中央部に位置している。

重複関係 覆土が残っていないため、不明である。

規模と形状 炉しか確認できないため不明である。地山が焼けている。

炉 長径80cm、短径60cmほどの楕円形の石組炉である。

所見 時期は、縄文時代と考えられる。



第27図 第6号竪穴建物跡実測図

第7号竪穴建物跡 (第28・29図 写真図版13～16)

位置 調査区5南部に位置している。

重複関係 西壁部は、覆土が残っていないため不明である。

規模と形状 東西1.16m以上、南北3.20mで、形状は円形か楕円形である。深さは18cmである。

炉 長径160cm、短径64cmほどの不整楕円形の複式炉である。長径60cm、短径48cmの石組と正対させるように、深鉢が逆位で置かれている。

覆土 自然堆積である。

遺物出土状況 遺物は細片が覆土中から出土している。

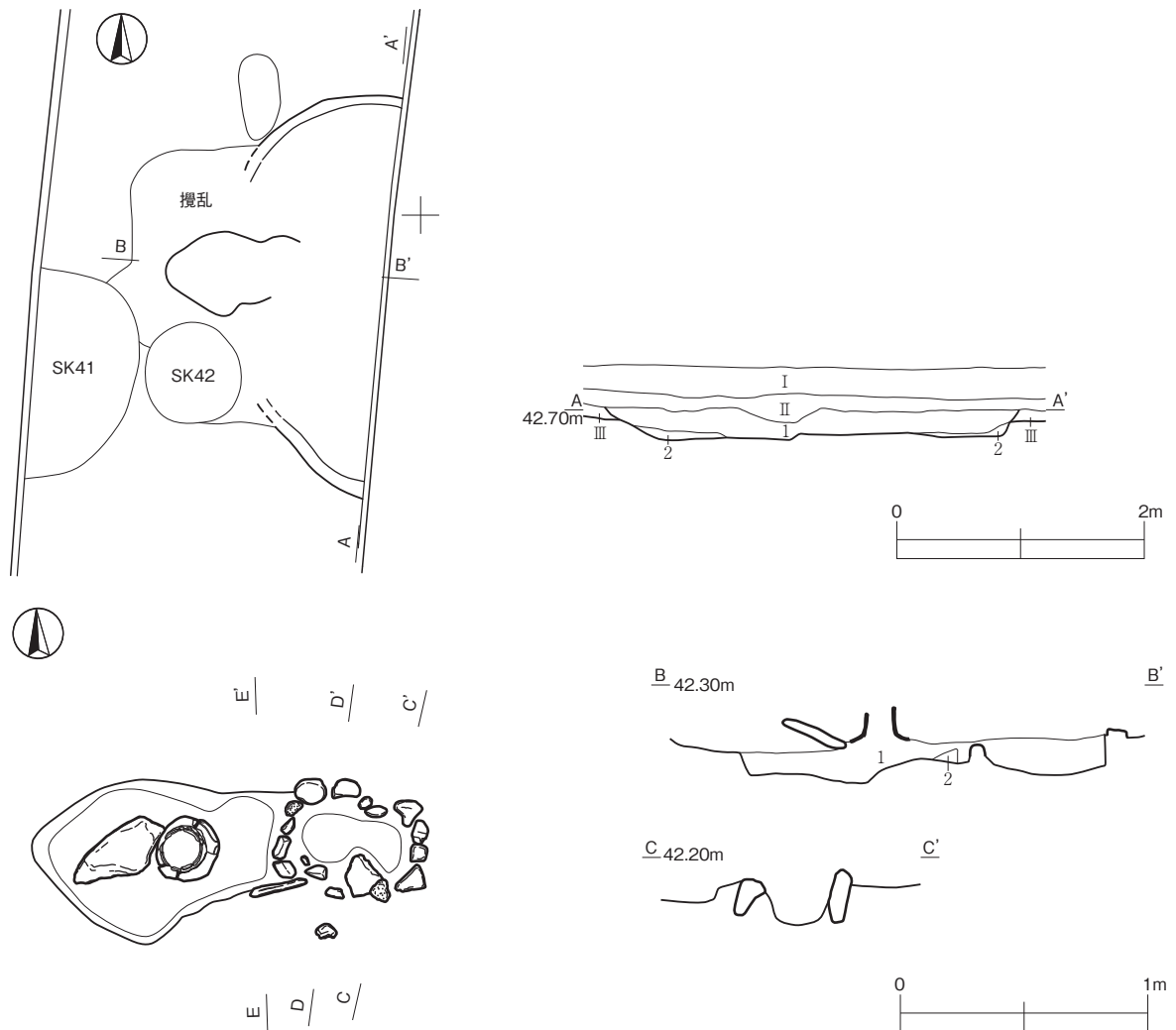
所見 時期は、出土土器から中期後半と考えられる。

土層解説

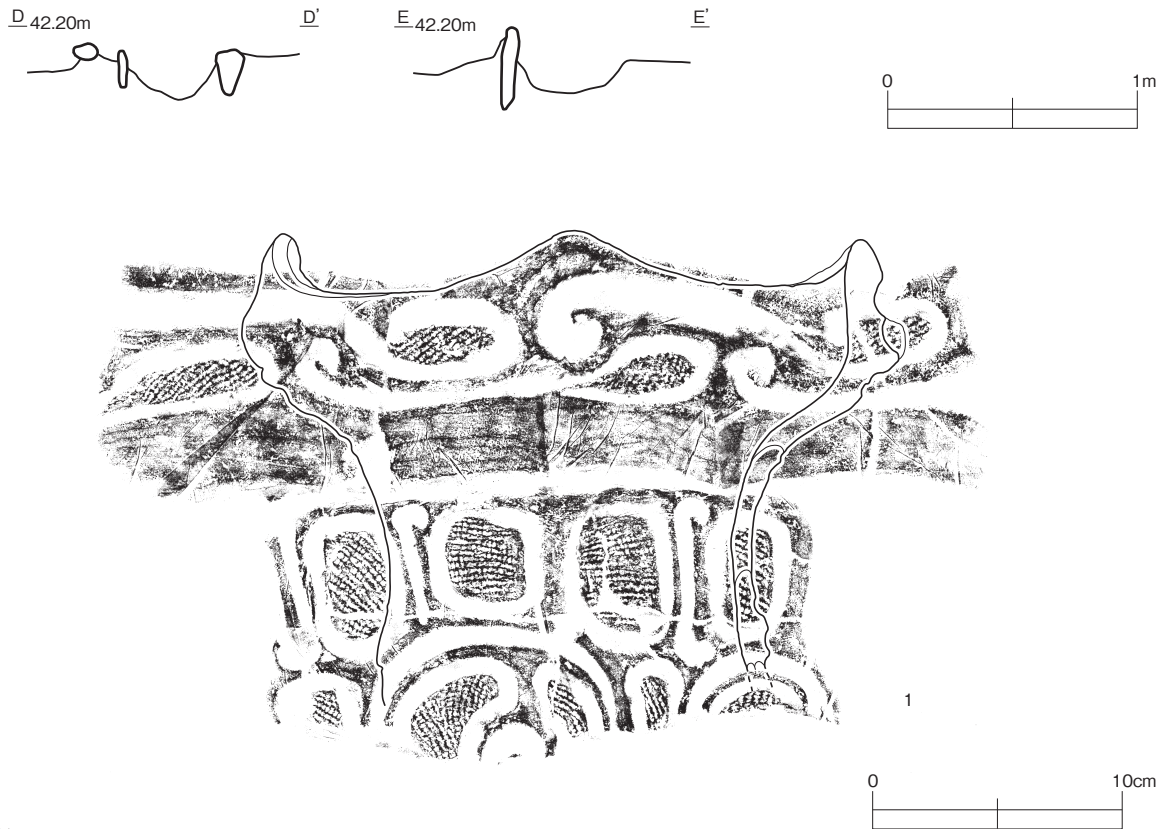
- 1 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子少量 締り強い
- 2 10YR3/4 暗褐色土 ロームブロック(径5mm)少量 締り強い

炉土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子多量 締り強い
- 2 10YR6/6 明黄褐色土 ローム粒子多量 締り強い



第28図 第7号竪穴建物跡実測図(1)



第 29 図 第 7 号 竪穴建物跡実測図 (2)・出土遺物実測図

表 9 第 7 号 竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	備考
1	縄文土器	深鉢	24.0	(18.7)	-	白色砂粒・透明細砂粒多量 黒雲母多量	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	4 単位の波状口縁 渦巻文と楕円形モチーフであるが楕円形を多用して、その間に渦巻文を配置する	

イ 土坑

第 27 号土坑 (第 30 図)

位置 調査区 3 南部に位置している。

重複関係 SP141 との重複関係は不明である。

規模と形状 東西 1.24m、南北 1.20 m の円形で、深さは 44cm である。壁の一部がオーバーハングしている。

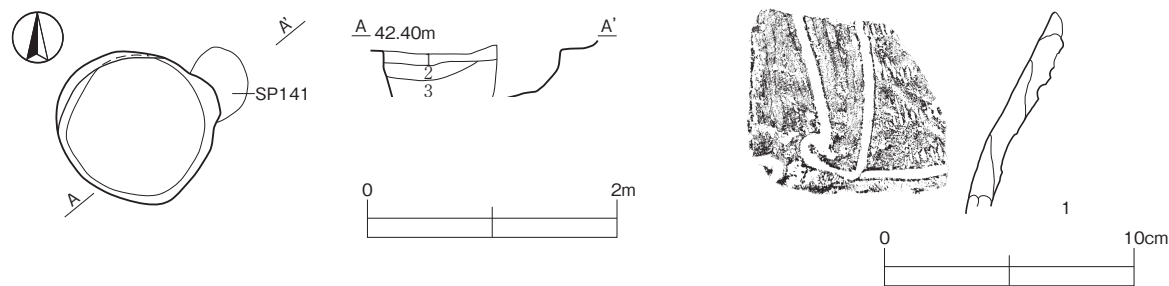
覆土 自然堆積である。

遺物出土状況 遺物は細片が覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。

土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子微量 締り強い
- 2 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子少量 焼土粒子微量 締り強い
- 3 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子多量 締り強い



第30図 第27号土坑実測図・出土遺物実測図

表10 第27号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	白色砂粒・透明細砂粒多量 海綿骨針少量	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	地文は櫛歯による刺突文	

第41号土坑(第31図)

位置 調査区5北部に位置している。

規模と形状 東西0.84m以上、南北1.68mで、形状は不明である。深さは75cmである。

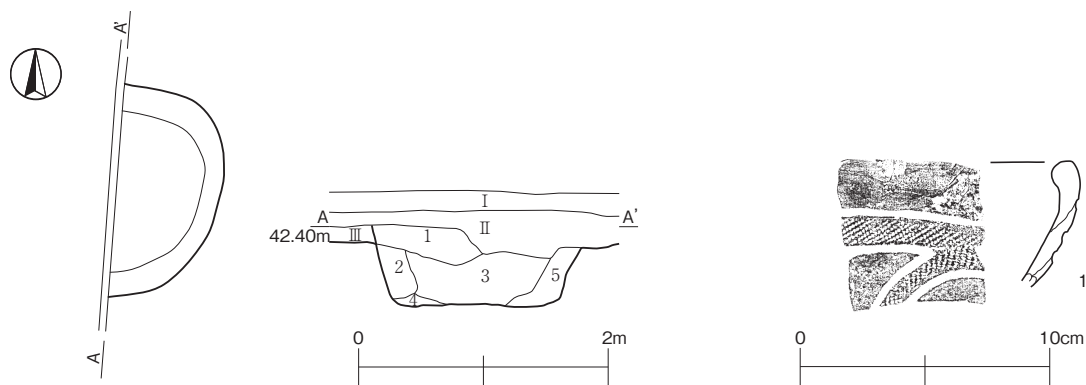
覆土 人為堆積である。

遺物出土状況 遺物は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期中葉と考えられる。

土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子微量 締りあり
- 2 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒子少量 締りあり
- 3 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子少量 締りあり
- 4 10YR4/6 褐色土 ローム粒子多量 締りあり



第31図 第41号土坑実測図・出土遺物実測図

表11 第41号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	白色砂粒・透明細砂粒多量 海綿骨針少量	黒褐色 (7.5YR3/2)	地文に沈線区画 内部を磨り消す	

(2) その他の遺構と遺物 (第 25 図)

調査区 5 からは、時期不明の土坑 25 基、溝跡 1 条、ピット 39 基を確認した。土坑の中で覆土が縄文時代の土坑と類似しているものがあるが、土器が出土していないため時期が不明なものがある。ピットの径は約 20～50cm であり、覆土は黒褐色土 (10YR3/2) である。

6 調査区 6 の遺構と遺物

(1) 縄文時代の遺構と遺物

竪穴建物跡 1 棟を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

竪穴建物跡

第 8 号竪穴建物跡 (第 32 図 写真図版 16・17)

位置 調査区 6 西部に位置している。

重複関係 不明である。

規模と形状 不明である。

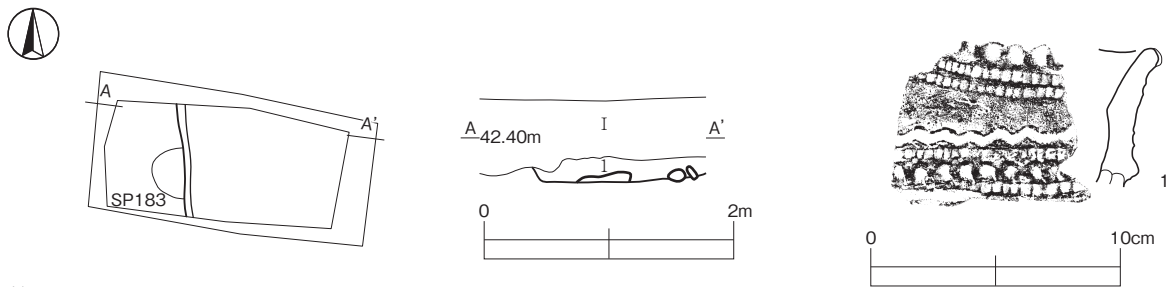
覆土 自然堆積である。

遺物出土状況 遺物は細片が覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期前半と考えられる。

土層解説

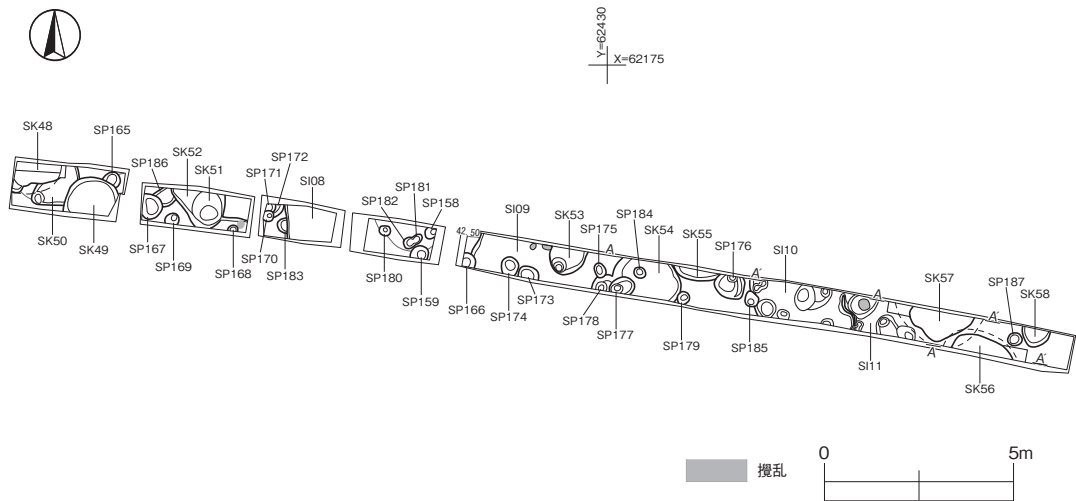
1 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子多量 締り強い



第 32 図 第 8 号竪穴建物跡実測図・出土遺物実測図

表 12 第 8 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	黒雲母少量 海綿骨針少量 白色砂粒・透明細砂粒多量	にぶい赤褐色 (5YR4/4)	口縁部は波状でキザミが施され、それに沿って 2 列の角押文施文 口縁部下部は、キザミ突帯と角押文施文	

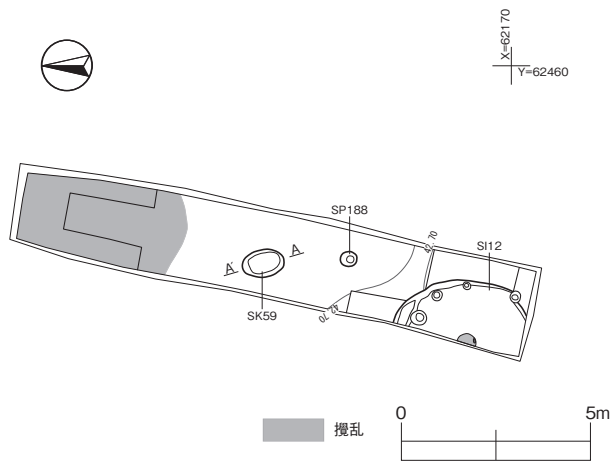


第 33 図 調査区 6 遺構全体図

(2) その他の遺構と遺物 (第 33 図)

調査区 6 からは、時期不明の堅穴建物跡 3 棟、土坑 11 基、ピット 30 基を確認した。ピットの径は約 20～50cm であり、覆土は黒褐色土 (10YR3/1) と暗褐色土 (10YR3/3) である。ピットの覆土は縄文時代の第 8 号堅穴建物跡の覆土よりも締りが弱い。

7 調査区 7 の遺構と遺物



第 34 図 調査区 7 遺構全体図

(1) 縄文時代の遺構と遺物

堅穴建物跡 1 棟を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

竪穴建物跡

第 12 号竪穴建物跡 (第 35 図 写真図版 19)

位置 調査区 7 南央部に位置している。

規模と形状 東西 1.68m 以上、南北 3.38 m で、形状は円形か楕円形である。深さは 50cm である。

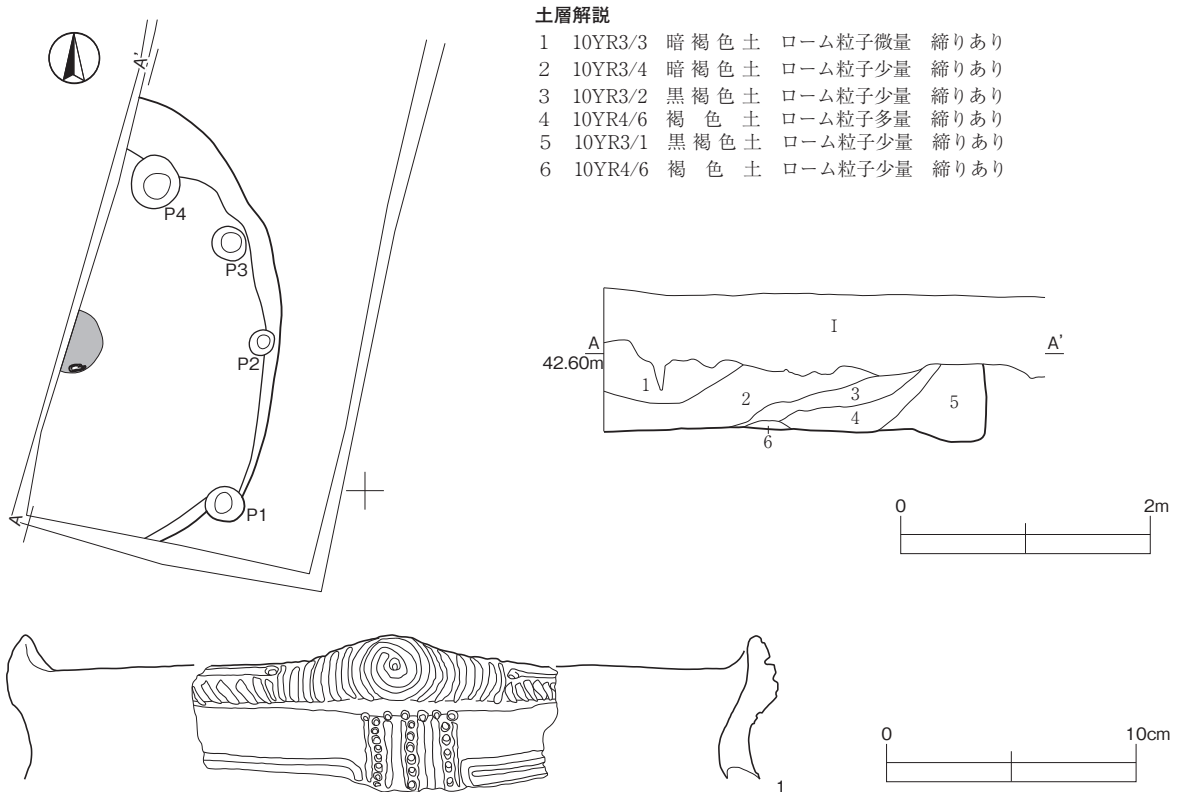
炉 地床炉である。

ピット 4 か所。壁際に配置されている。

覆土 自然堆積である。

遺物出土状況 遺物は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期初頭と考えられる。



第 35 図 第 12 号竪穴建物跡実測図・出土遺物実測図

表 13 第 12 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	備考
1	縄文土器	深鉢	[31.4]	(5.6)	-	黒雲母少量 海綿骨針多量 白色砂粒・透明細砂粒多量	浅黄色 (2.5Y7/3)	口縁部は沈線で渦巻文をモチーフとする。渦巻文下には横位に沈線を施し、その間を竹管文を施す。	

(2) その他の遺構と遺物 (第 34 図)

調査区 7 からは、時期不明の土坑 1 基、ピット 1 基を確認した。ピットの径は約 40 であり、覆土は暗褐色土 (10YR3/3) である。ピットの覆土は縄文時代の第 12 号堅穴建物跡の覆土よりも締りが弱い。

第 3 章 平成 30 年度調査の成果

第 1 節 調査の概要

今回の発掘調査は、30. 市道 6035 号線 (瑞龍中道線) 外道路改良工事に伴うものであり、平成 30 年度調査の面積は、442.26㎡である。調査区は 3 か所、現道に沿って細長く設定され、瑞龍中学校に一番近い調査区を「調査区 8」とし、それから北に向かって順番に「調査区 9」「調査区 10」と番号を付けた。調査前の現況はいずれも畑地である。

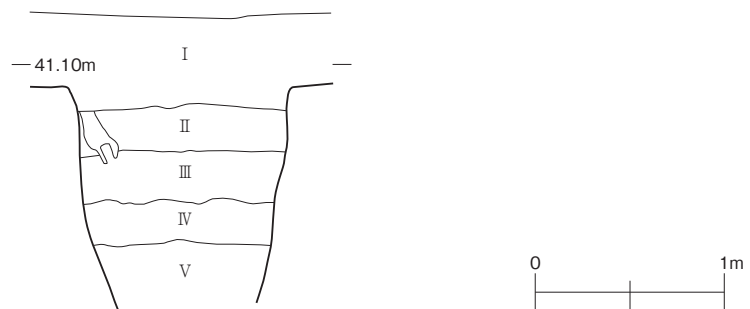
調査の結果、3 か所の調査区から堅穴建物跡 11 棟、掘立柱建物跡 3 棟、溝跡 4 条、土坑 15 基、ピット 75 基を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ箱 (60 × 40 × 20cm) に 3 箱出土している。主な遺物は、縄文土器 (深鉢)、弥生土器 (壺)、土師器 (杯・高台付杯・甕・甑)、須恵器 (杯・甕)、などである。

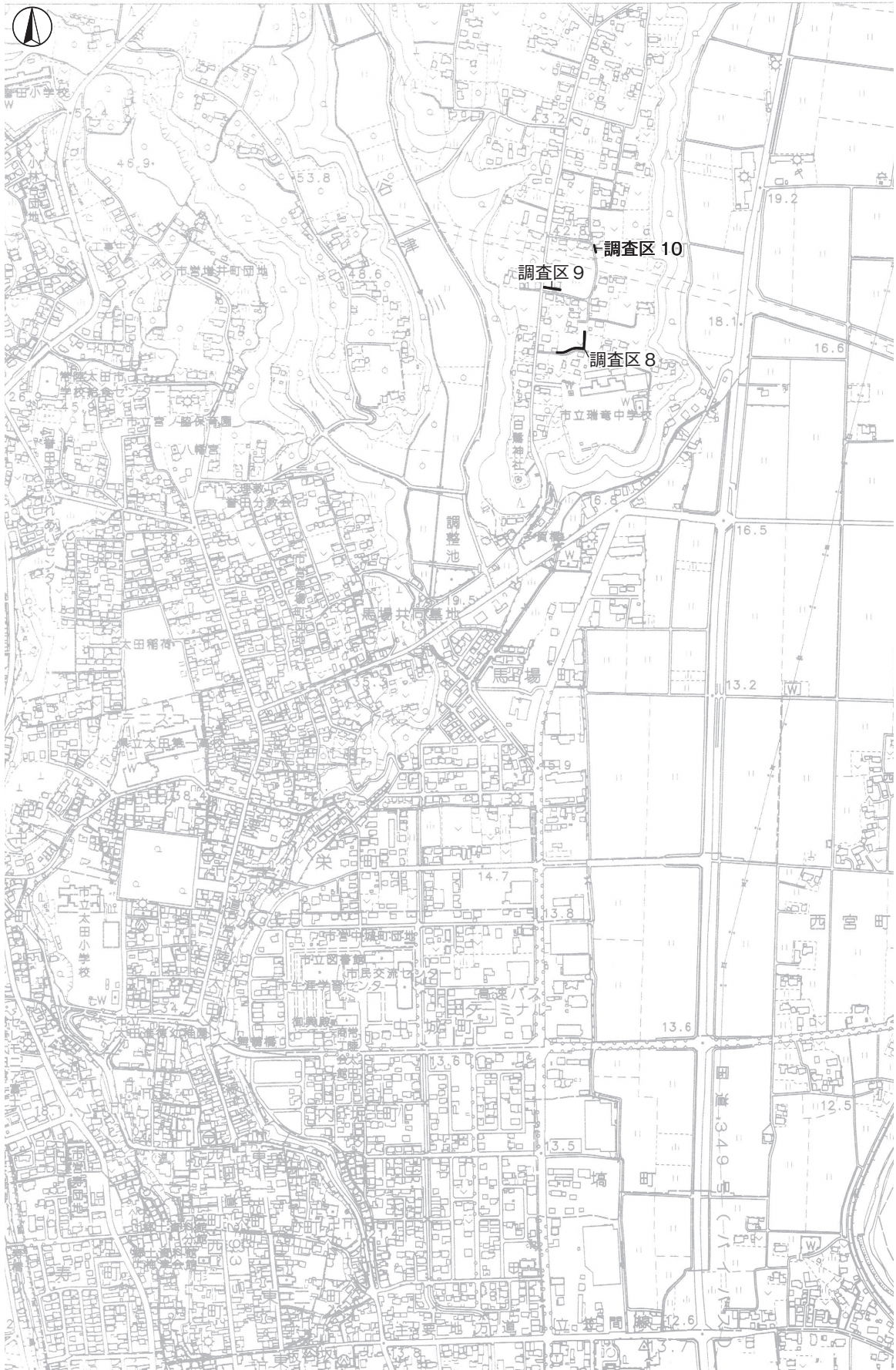
第 2 節 基本層序

調査区 8 にテストピットを設定し、基本土層の観察と旧石器時代の石器集中地点の有無を確認した。旧石器時代の石器集中地点は確認できない。

第 I 層が 10YR3/2 黒褐色土で、現在の畑の耕作土である。第 II 層が 10YR6/6 明黄褐色ソフトローム、第 III 層が 10YR6/6 明黄褐色ハードローム、第 IV 層が 10YR6/8 明黄褐色ハードローム、第 V 層が 10YR7/8 黄橙色ハードロームである。



第 36 図 基本土層図



第 37 図 平成 30 年度調査区位置図 (都市計画図 10,000 分の 1)

第3節 遺構と遺物

1 調査区8の遺構と遺物

(1) 奈良・平安時代の遺構と遺物

溝跡1条を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

第9号溝跡 (SD9 第38・39図 写真図版22)

位置 調査区8中央部に位置している。

規模と形状 長さ5.0mまで確認し、南北両端ともに調査区域外に延びている。幅約70cm、深さ15～28cmである。断面形は逆台形である。

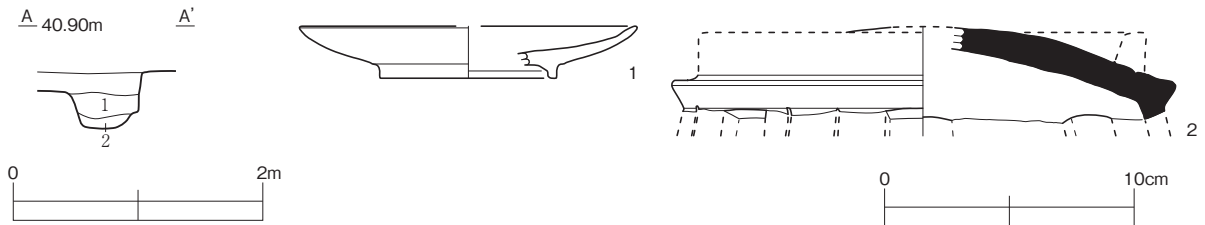
覆土 自然堆積である。

遺物出土状況 遺物は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世後半と考えられる。

土層解説

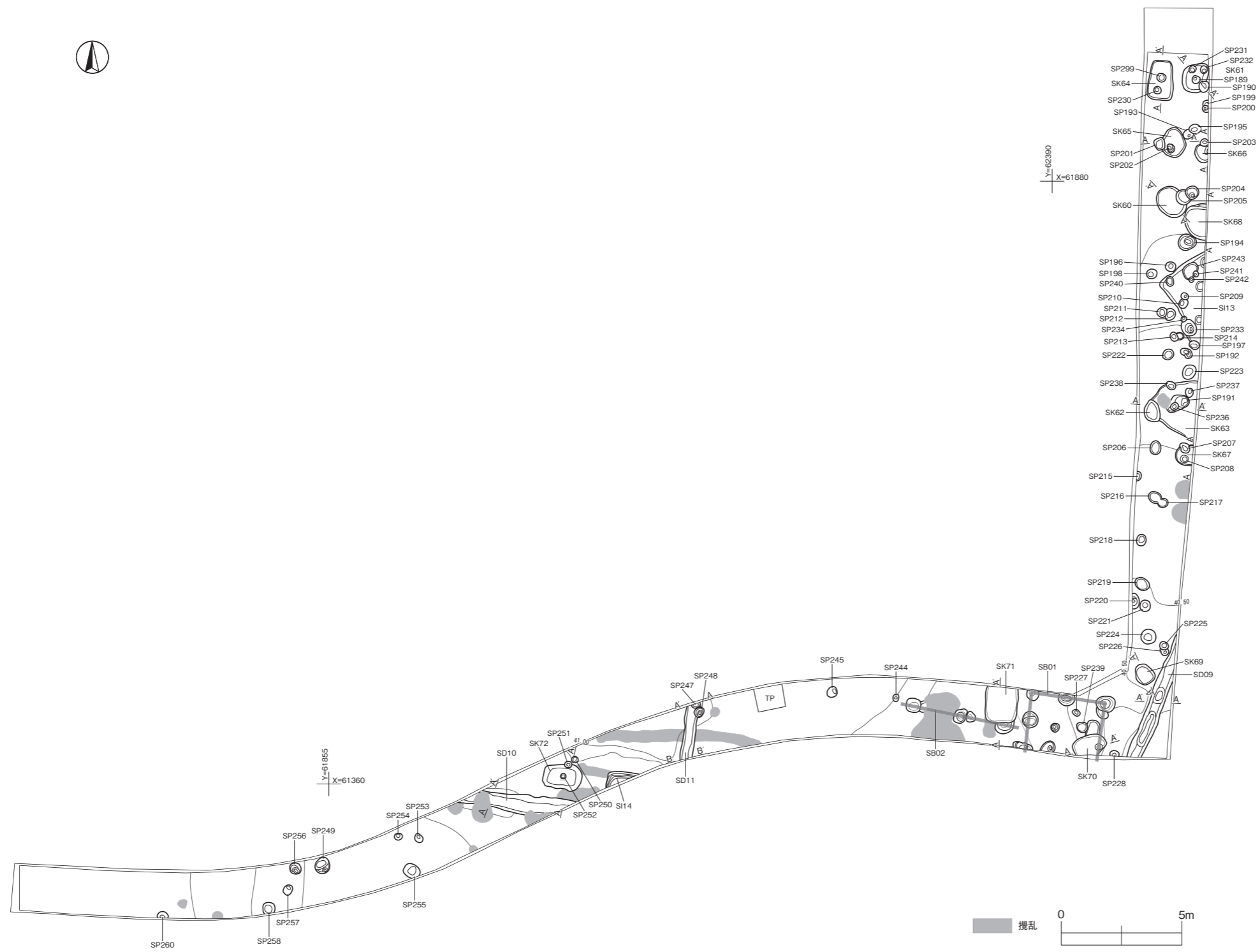
- 1 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子微量 締りあり
- 2 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒子微量 締りあり



第38図 第9号溝跡実測図・出土遺物実測図

表14 第9号溝跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	備考
1	土師器	有台皿	[13.4]	2.1	[7.0]	白色砂粒・透明細砂粒多量	橙色 (7.5YR7/6)	ロクロ成形	
2	須恵器	硯	-	-	-	白色砂粒微量	灰色 (N5/)	透孔は8孔カ	

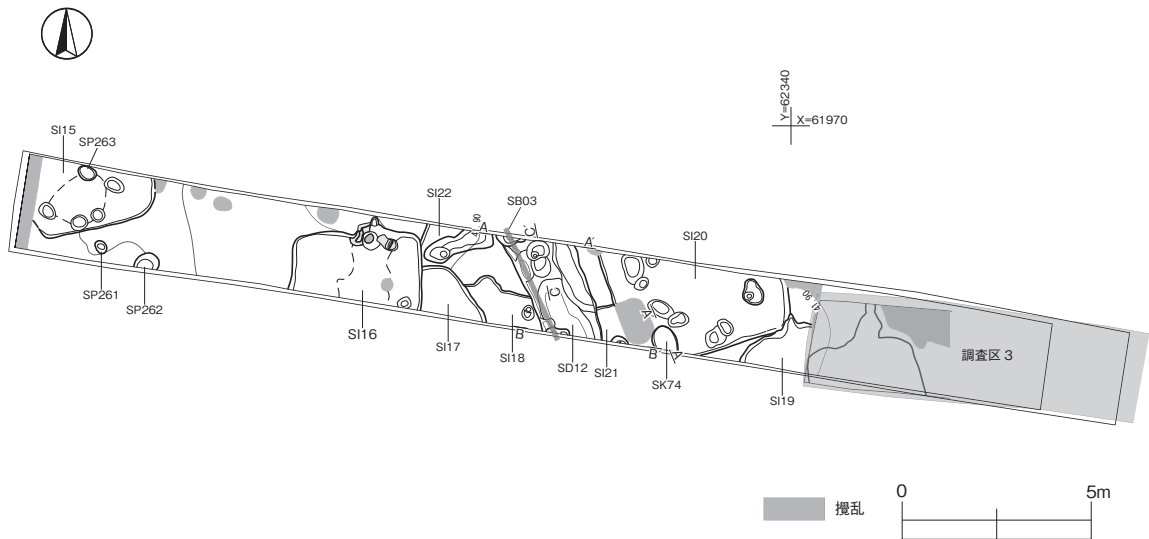


第 39 図 調査区 8 遺構全体図

(2) その他の遺構と遺物 (第 39 図)

調査区 8 からは、時期不明の竪穴建物跡 2 棟、掘立柱建物跡 2 棟、溝跡 2 条、土坑 14 基、ピット 72 基を確認した。掘立柱建物跡は、9 世紀後半の第 9 号溝跡と主軸がほぼ同じであるため、同時期の可能性があるが、明確な時期は不明である。ピットの径は約 20～40cm であり、覆土は黒褐色土 (10YR3/1) と暗褐色土 (10YR3/3) である。

2 調査区 9 の遺構と遺物



第 40 図 調査区 9 遺構全体図

(1) 古墳時代の遺構と遺物

竪穴建物跡 1 棟、溝跡 1 条を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

(ア) 竪穴建物跡

第 18 号竪穴建物跡 (SI18 第 41 図)

位置 調査区 9 中央部に位置している。

重複関係 第 17・第 12 号溝跡より古い。

規模と形状 不明である。深さは 10cm である。

竈 北壁にある。

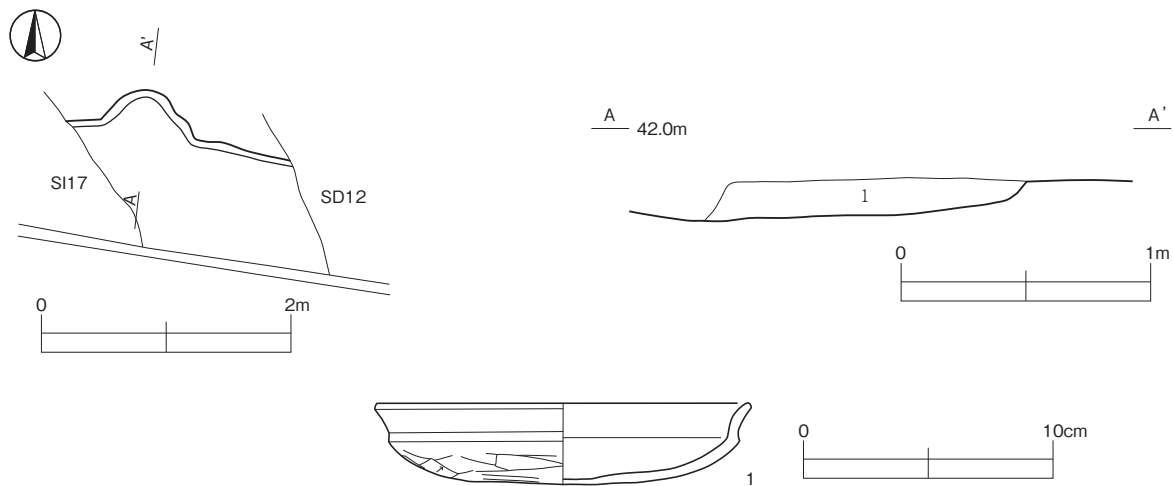
覆土 自然堆積である。

遺物出土状況 遺物は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から 7 世紀前半と考えられる。

土層解説

1 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子中量 締りあり



第41図 第18号竪穴建物跡実測図・出土遺物実測図

表15 第18号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	備考
1	土師器	杯	15.0]	3.3	-	白色砂粒・透明細砂粒微量	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	口縁部外内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	

(イ) 溝跡

第12号溝跡 (SD12 第40・42図 写真図版26)

位置 調査区9中央部に位置している。

重複関係 第18・21号竪穴建物跡より新しく、第3号掘立柱建物跡より古い。

規模と形状 長さ2.80mまで確認し、南北両端ともに調査区域外に延びている。幅166cm、深さ35cmである。断面形は逆台形である。

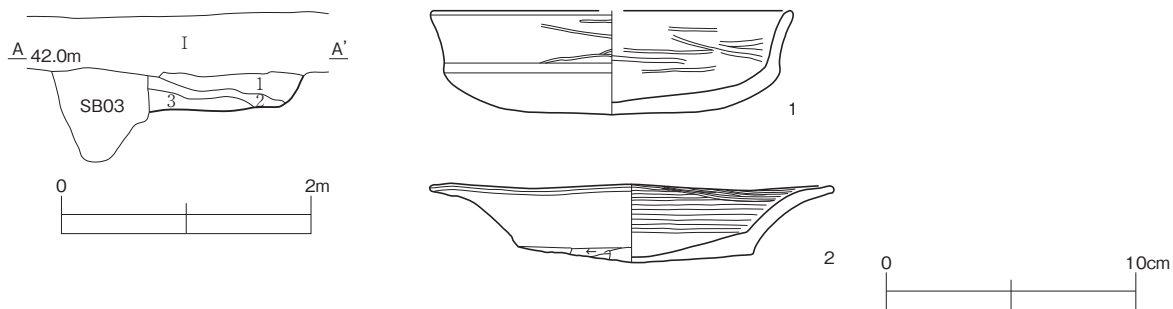
覆土 自然堆積である。

遺物出土状況 遺物は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世前半と考えられ、第18号竪穴建物跡より新しい。

土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒子中量 締りあり
- 2 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒子少量 締りあり
- 3 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒子少量 締りあり



第42図 第12号溝跡実測図・出土遺物実測図

表 16 第 12 号溝跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	備考
1	土師器	杯	[14.4]	4.1	-	白色砂粒・透明細砂粒少量	灰色 (5YR4/1)	口縁部外内面横ナデ 外面一部ヘラ磨き 体部内面ヘラ磨き	
2	土師器	杯	16.0	3.1	9.3	白色砂粒微量	にぶい黄橙色 (10YR6/4)	口縁部外内面横ナデ 底部外面ヘラ削り 内面ヘラ磨き	

(2) 奈良・平安時代の遺構と遺物

竪穴建物跡 1 棟を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

竪穴建物跡

第 15 号竪穴建物跡 (SI15 第 43 図 写真図版 23・24)

位置 調査区 9 西部に位置している。

重複関係 第 263 号ピットが新しい。

規模と形状 東西 3.20m、南北 2.12 m 以上で、形状は不明である。深さは 15cm である。

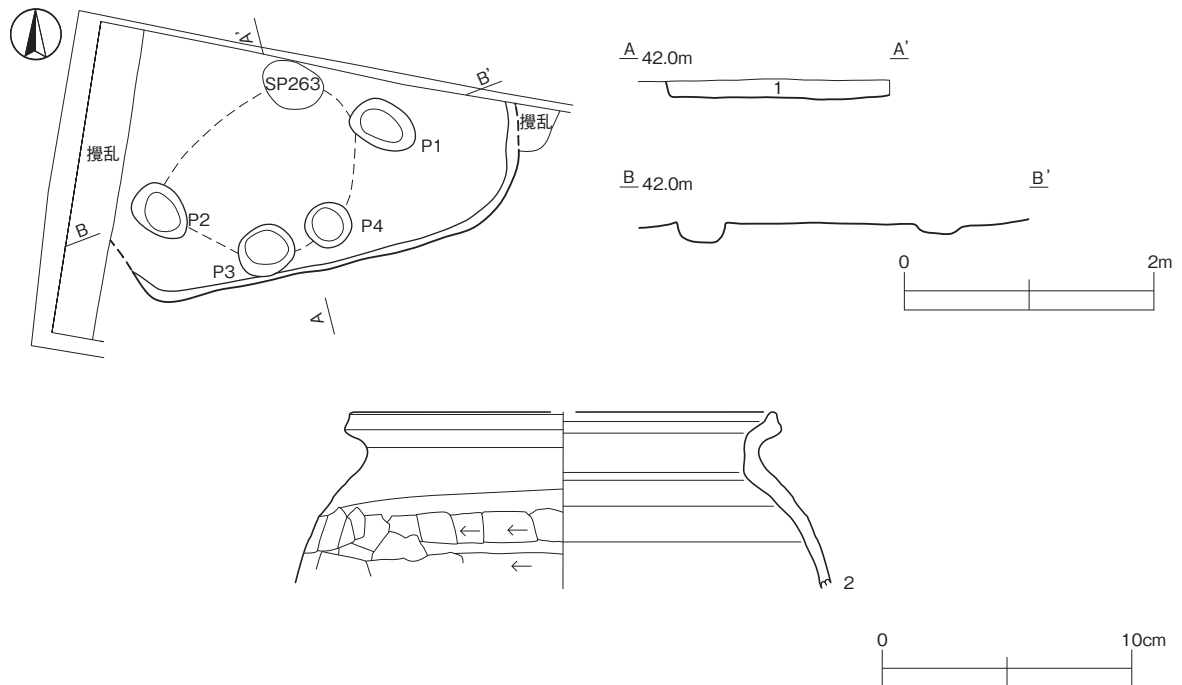
覆土 自然堆積である。

遺物出土状況 遺物は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から 8 世紀代と考えられる。

土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒子中量 締りあり



第 43 図 第 15 号竪穴建物跡実測図・出土遺物実測図

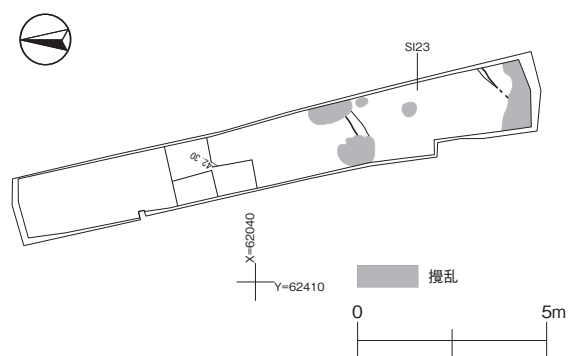
表 17 第 15 号堅穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	手法の特徴ほか	備考
1	土師器	甕	[17.4]	(7.0)	-	白色砂粒・透明細砂粒多量	灰黄褐色 (10YR4/2)	口縁部外内面横ナデ 体部外面ヘラ削り	

(3) その他の遺構と遺物 (第 40 図)

調査区 9 からは、時期不明の堅穴建物跡 6 棟、掘立柱建物跡 1 棟、土坑 1 基、ピット 3 基を確認した。第 17 号堅穴建物跡は、7 世紀前半の第 18 号堅穴建物跡より新しく、第 21 号堅穴建物跡は同じく 7 世紀前半の第 12 号溝跡より古い。出土遺物が細片のため時期を明確にできない。第 3 号掘立柱建物跡は、7 世紀前半の第 12 号溝跡より新しいが、出土土器がないため時期を明確にできない。ピットの径は 30cm であり、覆土は黒褐色土 (10YR3/1) である。

3 調査区 10 の遺構と遺物



第 44 図 調査区 10 遺構全体図

(1) その他の遺構と遺物 (第 44 図)

第 23 号堅穴建物跡 1 棟を確認した。この建物跡は、床面に硬化面が認められず、生活の痕跡が希薄であるため、堅穴建物跡としての根拠が薄い。また、出土土器が少ないため時期を明確にできない。

第5章 平成29・30年度調査成果の総括

瑞龍遺跡は、平成29・30年度の2年にわたり発掘調査され、縄文時代から中世にわたる遺構と遺物が確認された。個々の調査区幅が狭いため、遺構の全容を把握できず、各時代の様相を明らかにできない。ここでは、今回の発掘調査の成果を概観してまとめたい。

旧石器時代 今回の発掘調査では、旧石器時代の石器集中地点は確認できない。しかし、湧水が多い台地縁辺に遺跡が立地していることから、この時代の石器集中地点がある可能性は高いと考えられる。

縄文時代 縄文時代は中期前半から後期前半までの竪穴建物跡および土坑を確認した。今回の発掘調査に限ると、縄文時代の遺構の分布は調査区5から調査区7に限定される。また、調査区5から調査区7からは、時期が明確にできないが土坑群が分布している。これら土坑群の密度が濃いことから、縄文時代中期から後期にかけての拠点集落が形成されている可能性がある。

弥生時代 この時代の遺構は確認されていない。しかし、ほかの時代の遺構から後期の土器が出土しているため、周囲にこの時代の遺構が存在していると考えられる。この時代にも集落が形成されている可能性がある。

古墳時代 瑞龍古墳群の調査報告では、この瑞龍遺跡に前期の方形周溝墓の被葬者集団が想定された。今回の調査区からは、前期の竪穴建物跡は確認されていない。しかし、周囲に存在する可能性はあり、周辺の発掘調査成果も含めて検討する必要がある。

奈良・平安時代 8世紀から9世紀の竪穴建物跡および溝跡が確認された。特に第3・9号溝跡は、それぞれの時期の区画溝の可能性が考えられる。また、第9号溝跡からは円面硯が出土しており、当時期の官人の存在が推測される。

中世 第1号溝跡が該当する。確認された場所が小野城跡と考えられる瑞龍中学校の近くであり、城に関連する堀の可能性はある。しかし、調査された範囲が狭いため明確ではない。溝の埋没した段階の位置から、土師質土器の小皿がまとめて出土しており、祭祀の可能性はある。

以上、旧石器時代から中世までの調査成果の概略をまとめてみた。今回の発掘調査と周辺の発掘調査の成果をあわせて、瑞龍遺跡を考える必要がある。

写真図版

調査区 1
第 1 号溝跡完掘状況 (1)



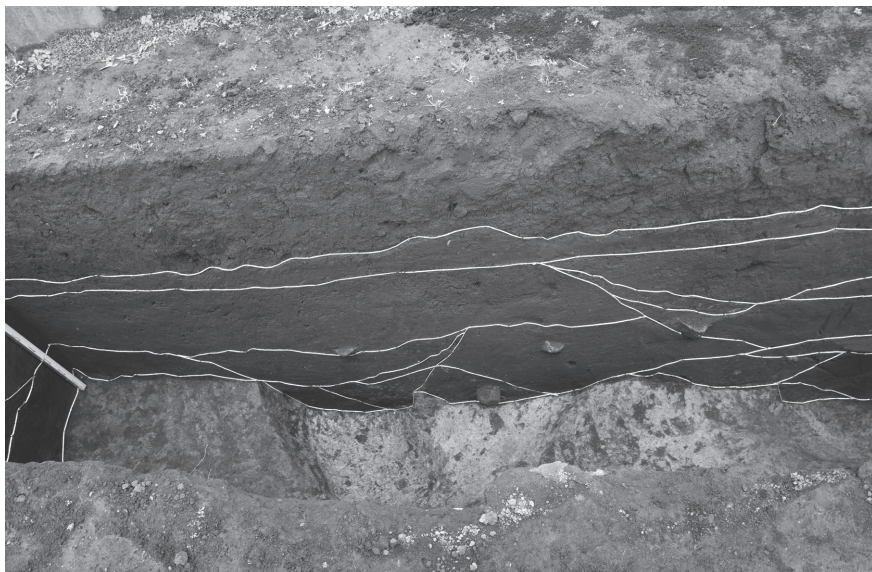
第 1 号溝跡完掘状況 (2)



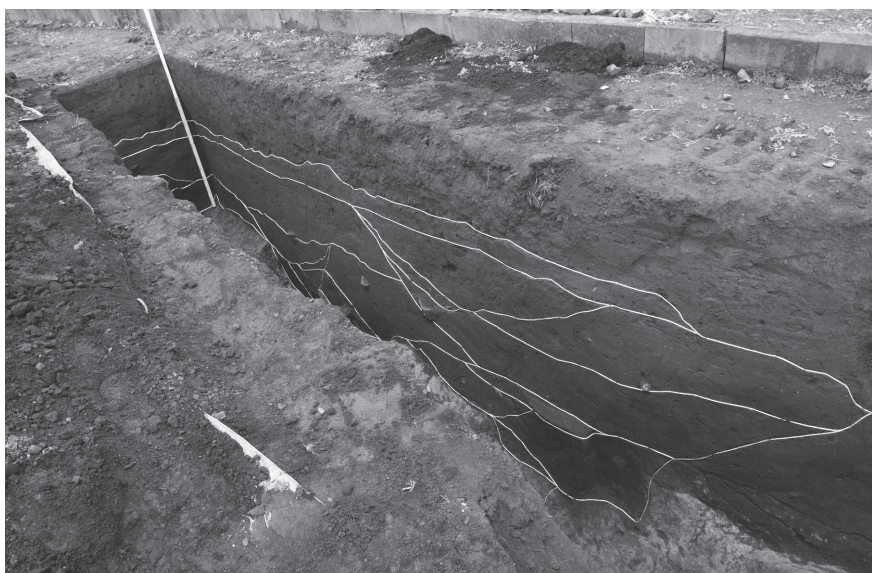
第 1 号溝跡完掘状況 (3)



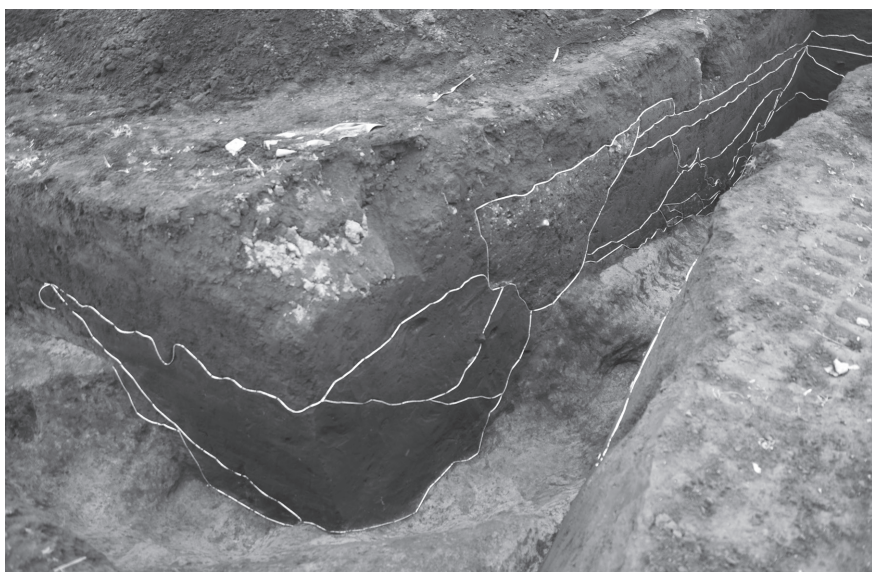
写真図版2



第1号溝跡完掘状況(4)



第1号溝跡完掘状況(5)



第1号溝跡完掘状況(6)

調査区2
調査終了状況(1)



調査終了状況(2)



調査終了状況(3)



写真図版 4



調査区 3
第 1・2号 竪穴建物跡完掘
状況



第 1号 竪穴建物跡竈遺物出
土状況

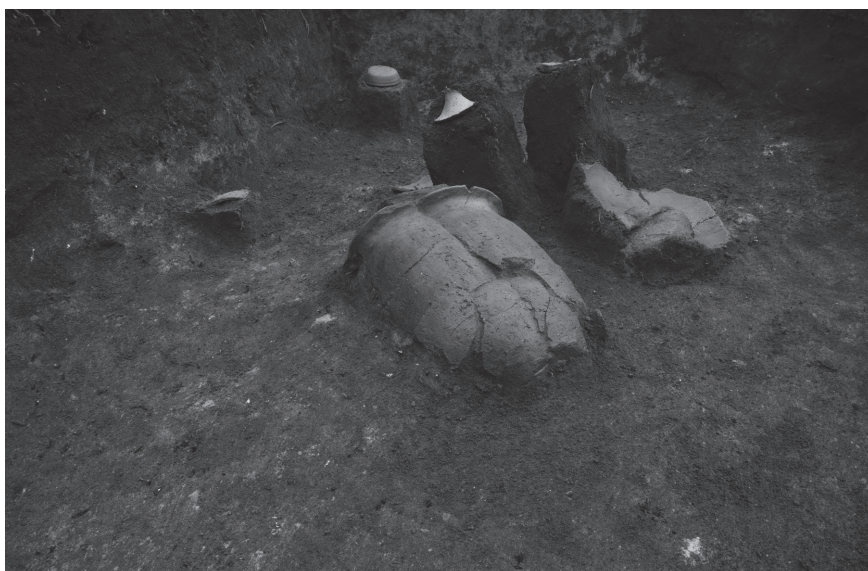


第 1・2号 竪穴建物跡掘り
方完掘状況

第2号竖穴建物跡遺物出土
状況(1)



第2号竖穴建物跡遺物出土
状況(2)



第2号竖穴建物跡遺物出土
状況(3)



写真図版6



第2号豎穴建物跡遺物出土
状況(4)



第3・4号豎穴建物跡完掘
状況



第3・4号豎穴建物跡掘り
方完掘状況(1)

第4号竖穴建物跡竈袖部断
ち割り状況



第4号竖穴建物跡竈掘り方
完掘状況



第4号竖穴建物跡遺物出土
状況



写真図版 8



第2号溝跡完掘状況 (1)



第2号溝跡完掘状況 (2)



第3号溝跡完掘状況 (1)



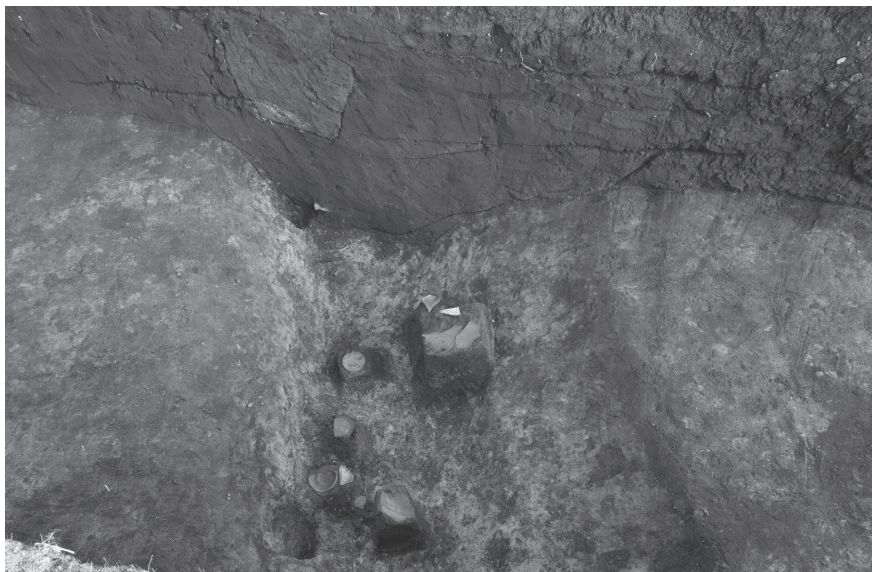
第3号溝跡完掘状況(2)



第3号溝跡完掘状況(3)



第3号溝跡遺物出土状況
(1)



第3号溝跡遺物出土状況
(2)



第3号溝跡遺物出土状況
(3)



第4号溝跡完掘状況(1)



第 4 号溝跡完掘状況 (2)



第 5 号溝跡完掘状況 (1)



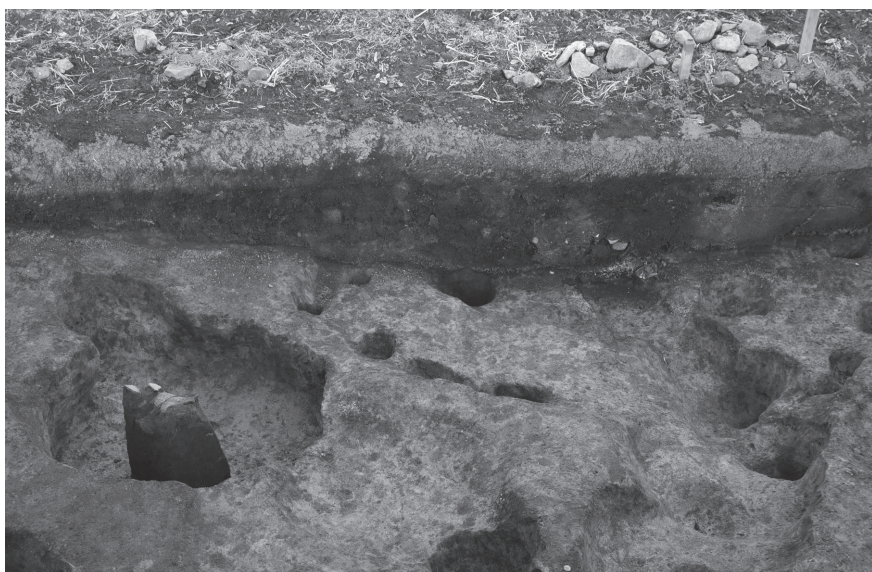
第 5 号溝跡完掘状況 (2)



調査区 4
調査終了状況 (1)

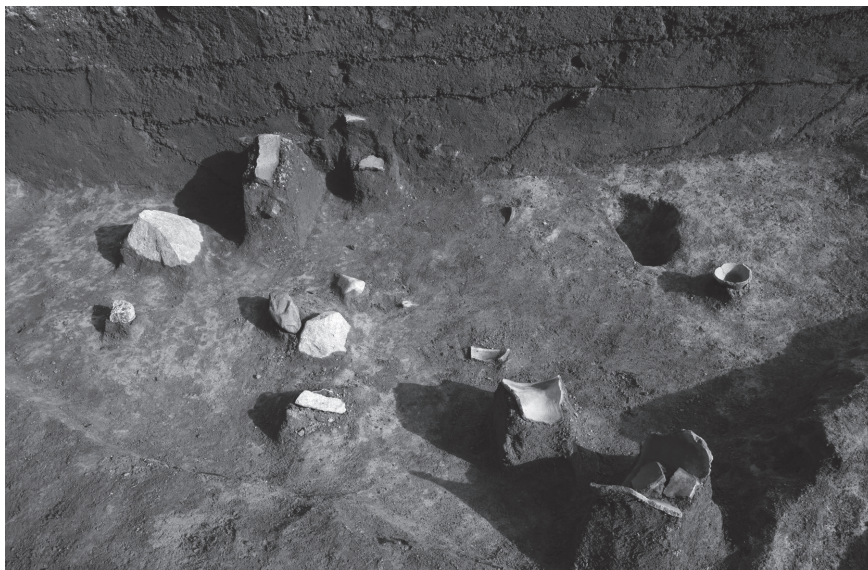


調査終了状況 (2)



調査区 5
第 5 号 竪穴 建物跡 完掘 状況

第5号竖穴建物跡遺物出土
状況



第6号竖穴建物跡完掘状况



第7号竖穴建物跡炉完掘状
况(1)





第7号竖穴建物跡炉完掘状
況 (2)



第7号竖穴建物跡炉完掘状
況 (3)



第7号竖穴建物跡炉完掘状
況 (4)

第7号竖穴建物跡炉完掘状
況 (5)



第7号竖穴建物跡炉土器出
土状況 (1)



第7号竖穴建物跡炉土器出
土状況 (2)





第7号竖穴建物跡炉土器出土状況 (3)



調査終了状況



調査区6
第8号竖穴建物跡遺物出土状況 (1)

第8号竖穴建物跡遺物出土
状況(2)

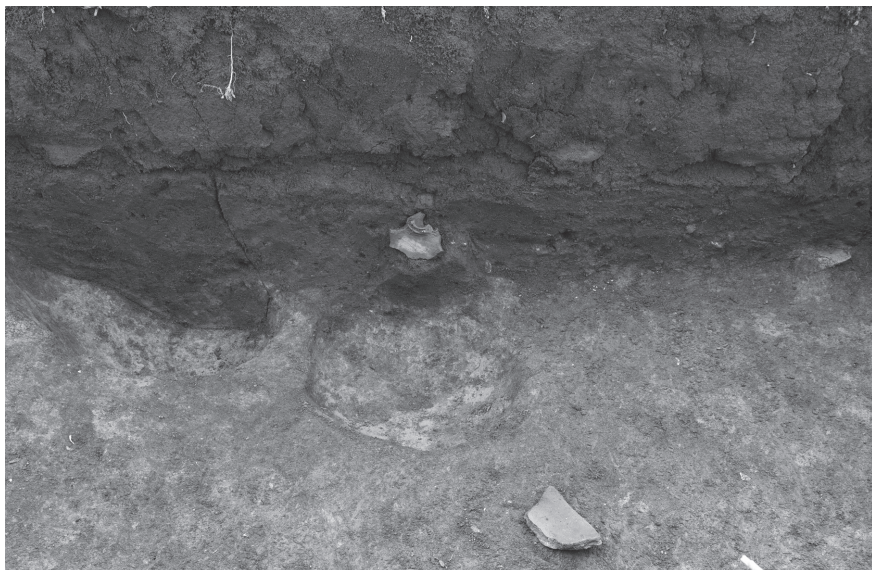


第9号竖穴建物跡完掘状况
(1)

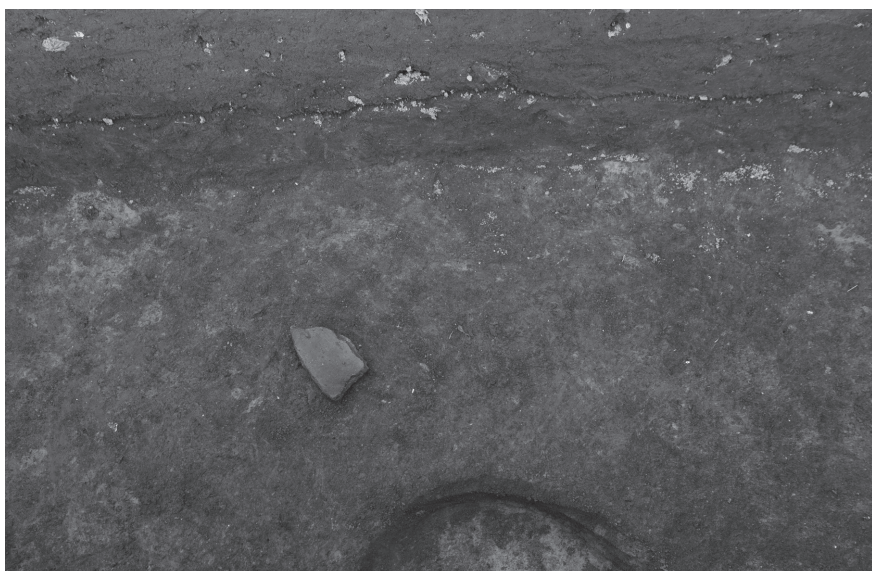


第9号竖穴建物跡完掘状况
(2)





第9号豎穴建物跡遺物出土
状況 (1)

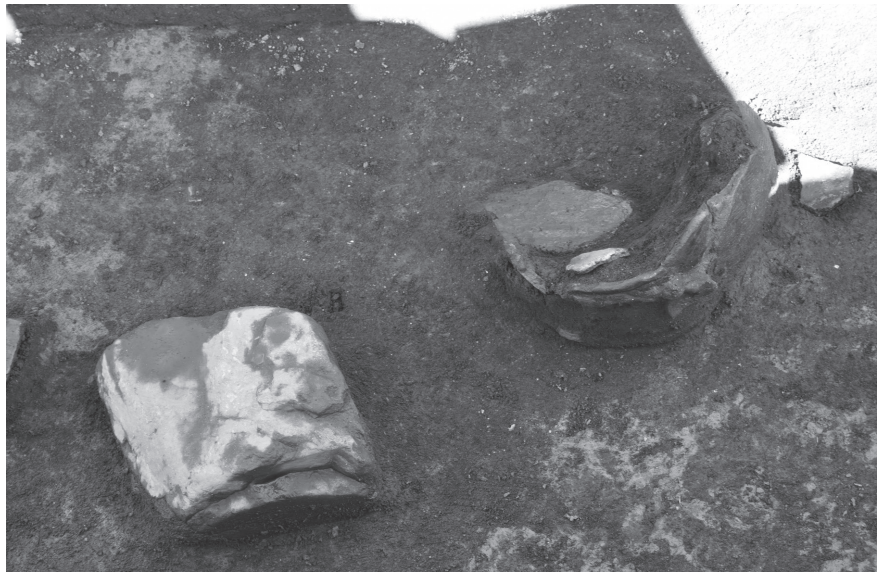


第9号豎穴建物跡遺物出土
状況 (2)



第10・11号豎穴建物跡完
掘状況

第 11 号豎穴建物跡遺物出土
狀況

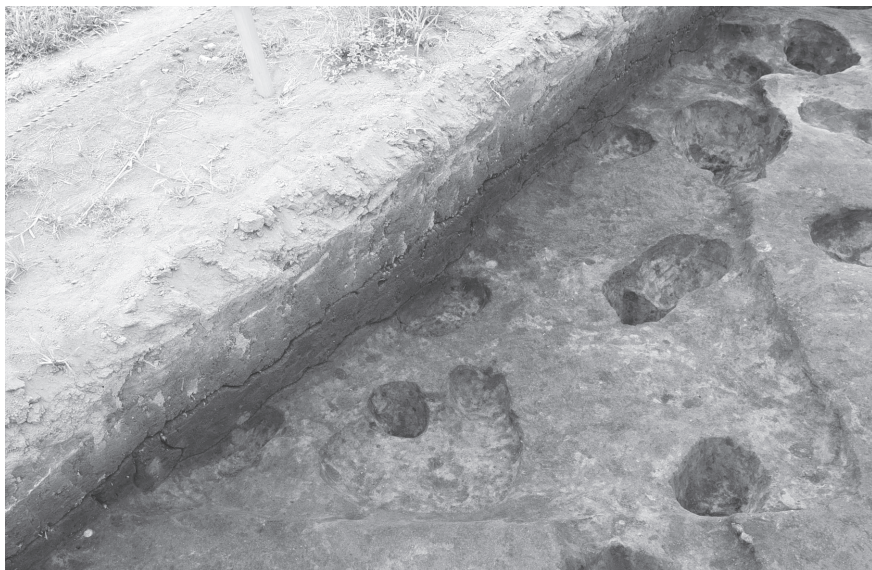


調査区 7
第 12 号豎穴建物跡完掘狀況



第 12 号豎穴建物跡炉完掘
狀況





調査区 8
第 13 号 豎穴 建物跡 完掘 状
況

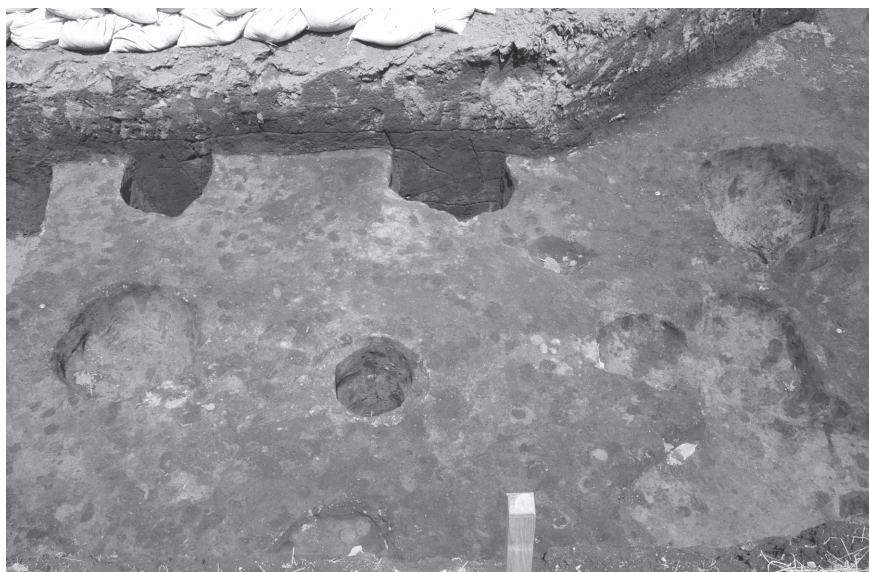


第 14 号 豎穴 建物跡 完掘 状
況



第 14 号 豎穴 建物跡 遺物 出
土 状 況

第1号掘立柱建物跡完掘状
況



第1・2号掘立柱建物跡完
掘状況



第2号掘立柱建物跡完掘状
況





第9号溝跡完掘状況 (1)



第9号溝跡完掘状況 (2)



調査終了状況 (1)

調査終了状況 (2)



調査区 9
第 15 号 竪穴 建物跡 完掘 状
況



第 15 号 竪穴 建物跡 遺物 出
土 状 況





第 15 号 豎穴建物跡掘り方
完掘状況



第 15 号 豎穴建物跡遺物出
土状況



第 16 号 豎穴建物跡掘り方
完掘状況

第 17 号 竪穴建物跡完掘状
況



第 19 号 竪穴建物跡完掘状
況



第 20 号 竪穴建物跡掘り方
完掘状況





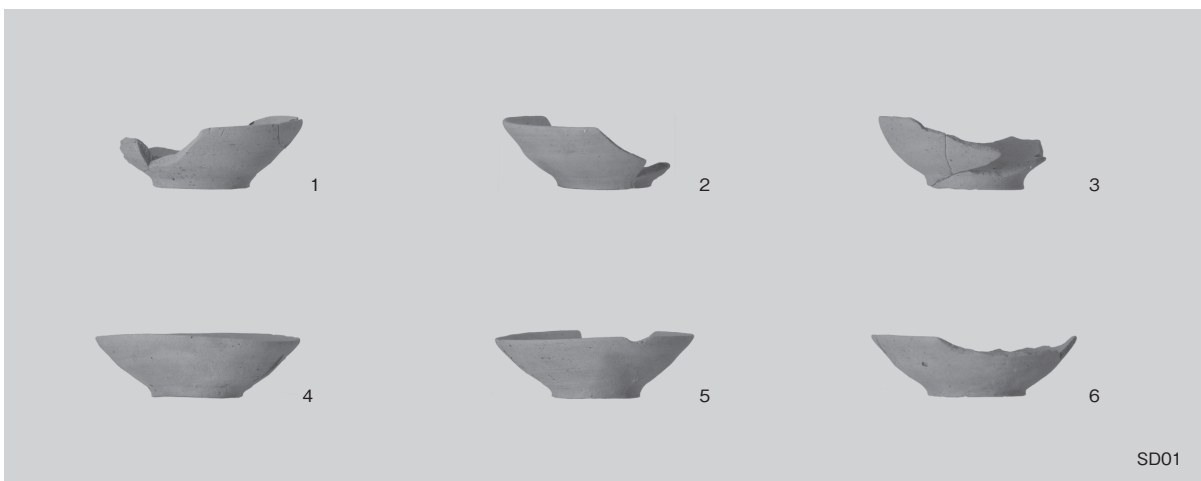
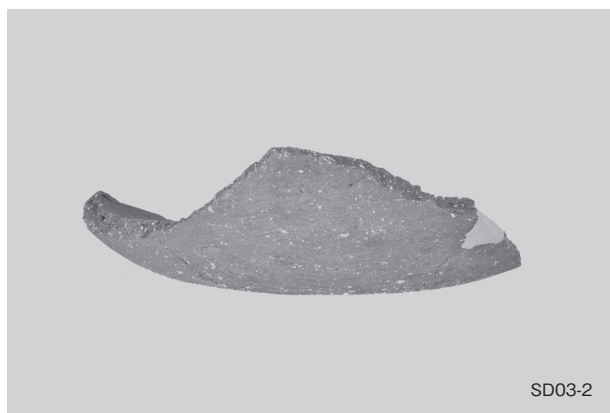
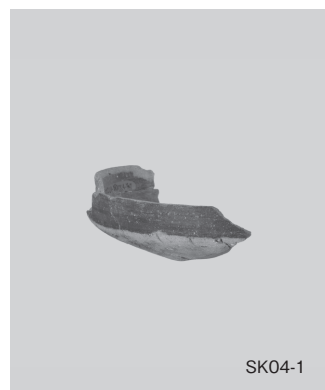
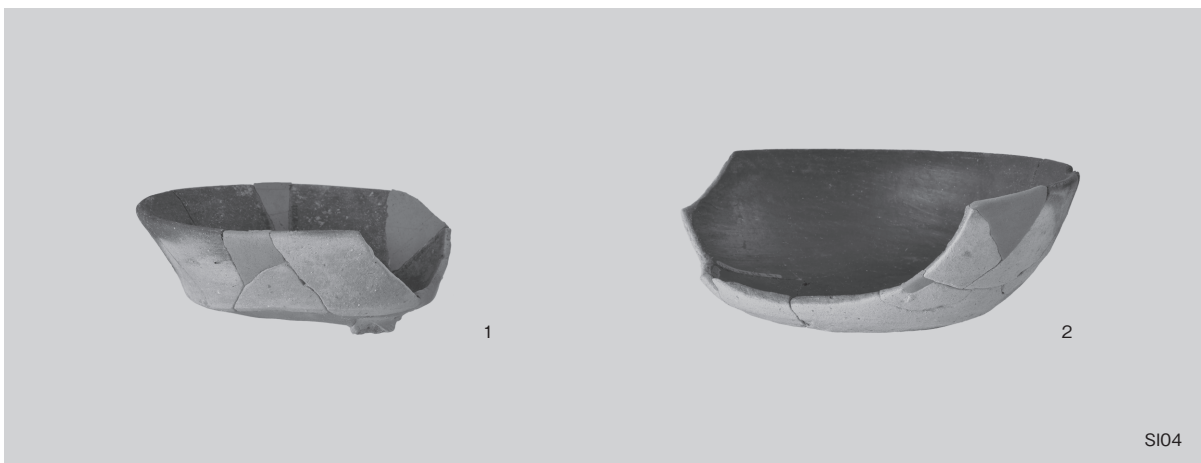
第 12 号溝跡遺物出土状況



調査区 10
第 23 号竪穴建物跡完掘状
況



調査終了状況





抄 録

ふりがな	ずいりゅういせき							
書名	瑞龍遺跡							
副書名	常陸太田市内遺跡調査報告書							
シリーズ名	常陸太田市埋蔵文化財調査報告書							
巻次								
シリーズ番号	第13集							
編著者名	山口憲一 早川麗司							
編集機関	有限会社毛野考古学研究所 茨城支所							
所在地	〒303-0044 茨城県常総市菅生町2042番地1 TEL 0297-27-0722							
発行機関	常陸太田市教育委員会							
所在地	〒313-0055 茨城県常陸太田市西二町2200 TEL 0294-72-3201							
発行年月日	西暦2019年(平成31年)3月20日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡番号					
ずいりゅういせき 瑞龍遺跡	いばらきけん 茨城県 ひたちおおたし 常陸太田市 ずいりゅうちょう 瑞龍町 688ほか	212	022	140度 32分 06秒	32度 06分 54秒	20171127 ～ 20180228 20180717 ～ 20181030	684.81㎡ 442.26㎡	市道6035 線(瑞龍 中道線) 外道路改 良工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
瑞龍遺跡	集落跡	・縄文 ・古墳 ・古代 ・中世	・竪穴建物跡 23棟 ・掘立柱建物跡 3棟 ・溝跡 12条 ・土坑 74基 ・井戸跡 2基 ・ピット 263基	縄文土器 弥生土器 土師器 須恵器 土師質土器		第1号溝跡は、中世小野崎城に関連する堀の可能性が ある。		
要約	今回の調査では、縄文時代から奈良・平安時代の集落の一部を調査した。調査区の周囲に遺構の広がりが推測される。							

瑞 龍 遺 跡

常陸太田市内遺跡調査報告書

第13集

発行年月日 2019（平成31）年3月20日
編 集 有限会社毛野考古学研究所 茨城支所
〒303-0044 茨城県常総市菅生町2042-1
TEL 0297-27-0722
発 行 常陸太田市教育委員会
〒313-0055 茨城県常陸太田市西二町2200
TEL 0297-72-3201
印 刷 山三印刷株式会社
〒311-4153 茨城県水戸市河和田町4433-33
TEL 029-252-8481